G ビズ ID 作成をご希望の方へ
本ガイドラインは行政サービス担当者向けのガイドラインであり、
ＧビズＩＤアカウント作成に関するマニュアルではございません。
法人・個人事業主の方がＧビズＩＤを作成されたい場合は、
ＧビズＩＤ｜ご利用ガイド (gbiz-id.go.jp)をご覧ください。

ＧビズＩＤ
接続システム向けガイドライン

デジタル庁
デジタル社会共通機能グループ

2.0 版

2024 年 03 月 28 日

変更履歴

版数	リリース日	章	内容
1.0	2019/2/12	全体	新規作成
1.1	2019/7/12	全体	サービス名を変更。G ビジネス ID→G ビズ ID アカウント名称を変更。 gBiz エントリー ⇒ gBizID エントリー gbiz メンバー ⇒ gBizID メンバー gbiz プライム ⇒ gBizID プライム
		2.1 アカウント種別	gBizID プライムは複数発行の可能性もある旨を追記。
		2.6 保持するデータ項目	桁数を追記
		2.7 委任について	メンバーへの委任について記述を追加。
		2.1 アカウント種別	調達仕様上の呼称（BizAcccout など）を削除
		2.6 保持するデータ項目	・法人番号、個人事業主管理番号の形式を追記 ・アカウント管理番号およびその形式を追記
		2.7.2 メンバーへの委任について	新規追記（2019/9 月追加開発機能）
		2.7.3 メンバーへの委任について	新規追記（2019/9 月追加開発機能）
		3.1.4 通知	通知メールがまだ G ビジネス ID というサービス名である点について補足
		3.2.2 委任情報取得 API について	レスポンスコンテント No8 法人番号／個人事業主管理番号の備考欄の誤記を修正 「半角英数」→「半角英数字」
		3.3.1.4 属性取得リクエスト	2.7.2 メンバーへの委任機能に基づき mandate という scope およびパラメータを追加 サンプルにも mandate のサンプルデータを追記
		3.3.2 委任情報取得 API について	リクエストコンテントの説明を追記
			レスポンスコンテントにて以下誤記を修正 No6 アカウント管理番号 （誤）必須 →（正）任意 No30 アカウント ID（メールアドレス） （誤）必須 →（正）任意
		4.1 各環境概要	本番環境での制限事項について追記
		4.3 RP 設定依頼書	scope に mandate を追加（2019/9 月追加開発機能）
1.2	2020/10/29	2.1.アカウント種別	gBizID メンバーの説明を追記 ・gBizID プライムが許可したサービスのみ利用できる。
		2.4.保証レベル	「行政手続におけるオンラインによる本人確認の手法に関するガイドライン」とＧビズＩＤとの関係を整理し、保証レベルの実装について修正 ・gBizID プライムの身元確認時 ・本人確認の手法に関するガイドラインとＧビズＩＤとの関係
		3.1.2.2 所有物認証	ワンタイムパスワード認証について追記 ・SMS 送信数の上限は１日あたり同一番号に対して５０通。
		3.1.4 通知	通知メールのサービス名が「G ビジネス ID」から「Ｇビズ ＩＤ」に修正されたため、本ガイドラインにおいても「Ｇビズ ＩＤ」に修正

			また、メールタイトル及び本文の差し替えを行ったので、下記を削除 ※なお、サービス名は【G ビス ID】に見直しをしているが、メールタイトルおよび本文は今後差し替え予定。
		3.1.4.2 SMS 通知	送信数の上限について追記 SMS 通知には送信数の上限（1 日あたり同一電話番号に対する送信数は 50 通）があるため、上限を超えるとエラーが発生する。エラーが発生した場合は 1 日経過すると SMS が通知されるようになる。
		3.3.1.6 各リクエスト検証方法	id_token のパラメータ「iss」に関する誤記を修正 （誤）「https://認証基盤のドメイン/」 →（正）「https://認証基盤のドメイン/oauth/」
		3.3.1.6 各リクエスト検証方法	Id_token のパラメータ「auth_time」は返却していないため、パラメーター一覧の「auth_time」及び検証方法の 6 を削除
		3.3.2. 委任情報取得 API について	委任情報取得リクエスト URL の「API パス」に下記を追記 ※コンテキストパス=/api
		4.3. RP 設定依頼書	RP 設定依頼書 ver0.931 の入力項目について追記
1.3	2021/11/1	表紙	Ｇビズ ＩＤの移管に伴い修正。 経済産業省商務情報政策局総務課情報プロジェクト室 →デジタル庁社会共通機能グループ
		全体	OpenIDConnect→OpenID Connect に修正
		全体	サービス名を変更。G ビジネス ID→Ｇビズ ＩＤ アカウント名称を変更。 gBiz エントリー ⇒ gBizID エントリー gbiz メンバー ⇒ gBizID メンバー gbiz プライム ⇒ gBizID プライム
		1.3. 政府方針における記載	Ｇビズ ＩＤの移管に伴い、下記を削除。 ○未来投資戦略 2018（平成 30 年 6 月 15 日閣議決定） ～○デジタル・ガバメント実行計画（平成 30 年 1 月 16 日 e ガバメント閣僚会議決定）
		1.3. 政府方針における記載	Ｇビズ ＩＤの移管に伴い、下記を追記。 ○デジタル・ガバメント実行計画（令和 2 年 12 月 25 日閣議決定） ～○デジタル社会の実現に向けた重点計画（令和 3 年 6 月 18 日閣議決定）
		3.3.1 OpenID Connect について	OpenID Connect について、3 ヶ所文言追加
		3.3.1.4 属性取得リクエスト	リクエストコンテント、リクエストサンプル→なしに修正
		3.3.1.4 属性取得リクエスト	レスポンス修正 ・レスポンス表へプライム、メンバー、エントリーの文言追加。3 種に分けて修正 ・name：任意→必須 ・parent_id：データ型　String→Number ・Number に整数追加 ・Sub の範囲を追加

		3.3.2. 委任情報取得 API について	リクエストサンプルの文言修正→レスポンスサンプルに修正
		3.3.2. 委任情報取得 API について	レスポンスコンテント ・プライム、メンバー、エントリーの文言追加。3 種に分けて修正
		4.2. 検証の流れ	ＧビズＩＤの移管に伴い修正。 経済産業省　商務情報政策局総務課　情報プロジェクト室 →デジタル庁　デジタル社会共通機能グループ　ＧビズＩＤ担当
		4.3. RP 設定依頼書	・システム上の利用可能なサービス一覧追加 ・サンプル「経済産業省」→「デジタル庁」に修正
1.4	2022/06/28	2.4. 保証レベル	gBizID プライムに関する（法人の場合）の記載について、「法人番号」→「会社法人等番号」に修正
		3.2.5.　再認証要求	再認証要求を追加
		3.3.1. OpenID Connect について	ユーザ再認証フローを追加
		3.3.1.2. ユーザ認可リクエスト	「Prompt」「login_hint」を追加、リクエストサンプルを修正
		3.3.1.3. アクセストークン取得リクエスト	レスポンスに関して「id_token」に関する記述を追加、レスポンスサンプルを修正
		3.3.1.4. 属性取得リクエスト	レスポンス関して「email」を追加、レスポンスサンプルを修正
		3.3.1.5. アクセストークン再取得リクエスト	レスポンスに関して「id_token」に関する記述を修正、レスポンスサンプルを修正
		3.3.1.6.　各リクエスト検証方法	（2）ID トークン検証/nonce 検証「sub」「auth_time」を修正、再認証要求を行った場合の ID トークンの検証について、追記。　　（検証方法 No.6～7）
		4.2. 検証の流れ	検証の流れについて、申請フローや関連ドキュメント名全般を修正。
		4.3. サービス連携申込書	タイトルを「RP 設定書」から「サービス連携申込書」に修正。サービス連携申込書の記載内容について全般を修正。 （2）OpenID Connect 連携に関する情報　ログイン後のリダイレクト URL に関する注意点追記
		4.4. テストでの確認ポイント	「ユーザ認可リクエスト」に関する確認内容について注意点を追記
		4.5. よくある問い合わせ事項	よくある問い合わせ事項を追加
1.5	2022/12/1	2.7.2 メンバーへの委任について	リリース予定の文言削除
		2.7.3 プライム承継機能について	リリース予定の文言削除
		3.3.1.4　属性取得リクエ	Scope 名の誤記「opened」を「openid」 へ修正

		スト	
		4.1. 各環境概要	本番環境、検証環境の位置づけ、アカウント作成方法　プライム文言修正
		4.2. RP 設定申込書	（4）多要素認証ポリシーに関する情報 （6）システム内の利用可能なサービス一覧追加 （8）連絡先情報追記修正
		4.5.　接続後の対応	接続後の対応（設定変更・削除）に関する記載を追加
		4.6. よくある問い合わせ事項	ケース 2 追加
1.6	2023/4/1	3.3.1.2 ユーザー認可リクエスト	Scope について文言修正
		4.2（2）OpenID Connect 連携に関する情報	Scpoe 指定に関する記述を削除
		4.4. 接続後の対応	設定変更時の注意点を追加
1.7	2023/5/22	表紙	本ガイドラインの注意点について記載
		2.6　保持するデータ項目	ＧビズＩＤが利用する文字コードについて記載
		4.1. 各環境概要	事前申請に関する問い合わせ先を記載
		4.4. 接続後の対応	ログインエラーに関する調査ヒアリング事項を記載
		4.5.よくある問合せ事項	よくある問合せケース③を追加
		3.3.1.2 ユーザー認可リクエスト	State,Prompt,Nonce,Scope⇒全て小文字に変更
		3.3.1.3 アクセストークン取得リクエスト	Code⇒小文字の code に変更
		3.3.1.5 アクセストークン再取得リクエスト	Code⇒小文字の code 変更
		3.3.1.6 各リクエスト検証方法	State⇒小文字の state に変更
1.8	2023/8/29	2.1. アカウント種別	gBizID プライムの説明について、書類郵送申請とオンライン申請について記載を追加
		2.4. 保証レベル	gBizID プライムの身元確認時の記載について、書類郵送申請とオンライン申請について記載を追加
		2.6. 保持するデータ項目	代表者生年月日の補足説明について生年月日が不明時の対応について追記
		3.1.2.2　所有物認証	スマートフォンアプリの表記を修正
		3.2.3. ログインボタン配置ポリシー	新画面、新アイコンにあわせて全体を修正
		全体	ＧビズＩＤアプリアイコンの画像を変更
1.9	2023/11/21	3.1.2.2　所有物認証	ワンタイムパスワード認証に関する廃止見込みに関する記述を追記
		3.3.1.2 ユーザ認可リクエスト	（2）ログイン後の URL アクセスリクエストのリクエストコンテント（正常時)、データ型部分に「最大文字数」という定義を追記

		3.3.1.3 アクセストークン取得リクエスト	（1）アクセストークン取得リクエストのリクエストヘッダ　設定値部分に「～でエンコードした値」を追記、リクエストコンテント備考欄の「Authorization_code」の大文字 A を小文字に修正、リクエストサンプルを Authorization_code の大文字 A を小文字に修正およびサンプル注意点を補足、レスポンスのデータ型部分に「最大文字数」という定義を追記、access_token および refresh_token、id_token のデータ型最大文字数を修正
		3.3.1.4 属性取得リクエスト	（1）属性取得リクエストのレスポンスのデータ型部分に「最大文字数」を追記
		3.3.1.5 アクセストークン再取得リクエスト	（1）アクセストークン再取得リクエストのリクエストヘッダ　設定値部分に「でエンコードした値」を追記、リクエストサンプル注意点を補足、レスポンスのデータ型部分に「最大文字数」という定義を追記、access_token および refresh_token、id_token のデータ型最大文字数を修正
		3.3.2. 委任情報取得 API について	（1）委任情報取得リクエストのリクエストコンテント（正常時）のデータ型に「最大文字数」という定義を追記
		4.1.各環境概要	各環境の定義、テストアカウントの作成方法などを追記
		4.2.審査および設定申込に関するフローと注意事項	4.2 章として章立てを追加。審査及び接続に関する注意点を記載
		4.3.RP 設定申込書	冒頭および（1）連携サービスデータ概要「サービス開始予定日」欄に提出時の注意事項を追記
		4.4.テストでの確認ポイント	エラー発生時の調査に関する記述を追加
		4.6.よくあるお問合せ事項	FAQ を追加
2.0	2024/3/28	2.1. アカウント種別	オンライン申請が法人も対象になったため、修正。
		2.2. 取得方法	アドミン権限の記載を追加。
		2.3. アカウントライフサイクル	※1 gBizID メンバー（アドミン権限を持つ場合）を追加。
		2.4. 保証レベル	gBiz プライムに法人オンライン申請の情報を追加。 gBizID メンバーに（アドミン権限を持つ場合）を追加。
		3.1.1. ユーザ登録・管理	アドミン権限を持つ gBizID メンバーの記載を追加。
		3.3.2. 委任情報取得 API について	（1）委任情報取得リクエストの説明文を追加。リクエストサンプルの 2 行目が「client_token」の誤記を修正。
		4.2.2. ①利用申請について	利用申請時の注意点について追加。
		4.2.7. リリース後の設定変更・設定追加依頼要望について	TOP ページコンテンツ掲載に関する注意点を追加。
		4.2.8. その他（テストアカウントの作成手順）	アドミン権限を持つ gBizID メンバーの記載を追加。
		4.3. RP 設定申込書	(5)部分に注意点を補足
		4.6. よくあるお問合せ事項	Q8 に“作成した gBizID メンバーにアドミン権限を付与することはできません。“を追加。

目次

1. ＧビズＩＤの概要

1.1. ＧビズＩＤとは

電子的な行政手続きの対象者を一元的に認証する基盤である。企業の代表者や従業員、個人事業主等が、各種電子申請システム（申請のほか、届出・報告等の業務を含む）等を利用する際の統合認証基盤として利用することができる。

1.2. 導入の背景

これまでの電子政府の取組は、紙や押印の機能を電子上で再現することを所与のものとし、また、制度・業務ごとに個別システムを構築してきたため、システム間の連携が取れておらず必ずしも利用者にとって利便であるとは言えない状況であった。

ＧビズＩＤは、このような従来の電子政府の手法からの脱却を目指し、添付書類の削減や同一情報の提出は一度として、１つのアカウント（ID/パスワード）で複数の行政手続を行うことができるよう、サービスデザイン発想での行政サービスを実現するために平成 31 年２月より導入するサービスである。

ＧビズＩＤの導入により、申請時の利便性の向上だけでなく、複数システムでの申請内容や履歴等を紐付け、それを活用した質の高い行政サービスを提供することも将来的な目的としている。

1.3. 政府方針における記載

○デジタル・ガバメント実行計画（令和２年 12 月 25 日閣議決定）
8.3 法人デジタルプラットフォームの整備

また、一つの ID・パスワードで複数の行政サービスにアクセスを可能とする認証システムとしてＧビズＩＤを 2019 年度（令和元年度）より運用開始し、経済産業省の産業保安関係法令手続、中小企業向け補助金申請等の主要な行政手続、厚生労働省の社会保険手続、農林水産省関係の手続等における認証システムとして導入されている。引き続き、法人向け行政手続の共通認証システムとして普及を図るため、各府省や地方公共団体といった行政機関等の行政手続について横展開を行っていく。

○デジタル社会の実現に向けた重点計画（令和３年６月 18 日閣議決定）
第２部１．（４）ID・認証
② 法人共通認証基盤（ＧビズＩＤ）の普及

法人及び事業を行う個人（個人事業主）が、様々な行政サービスにログインできる認証サービスを実現するため、法人の認証としてはＧビズＩＤの普及と利用の拡大を図る。特に中小企業の手続負担軽減のための取組として、令和４年度（2022 年度）中を目途に 100 万法人の取得を目指すとともに、令和７年度（2025 年度）にはほぼ全ての法人が取得する環境を目指し、中小企業施策のデジタル化に貢献する。

2. ＧビズＩＤの提供するアカウント

2.1. アカウント種別

ＧビズＩＤでは、以下の２つの体系のアカウントを用意する。ユーザの利用用途により、いずれかのアカウントを作成する。また、代表者アカウント（gBizID プライム）は、その管理の下、従業員等用のアカウントとして gBizID メンバーを作成することができる。

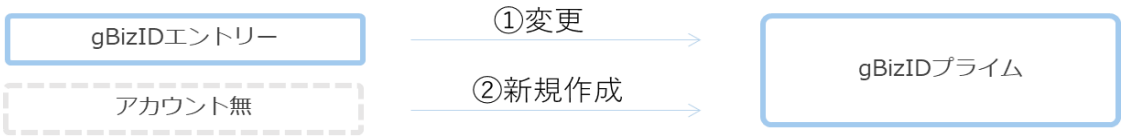
	アカウント種別	説明
1	gBizID エントリー	・誰でも作成できるアカウント。 ・登録内容の確認は行われない。ただし、メールアドレスの存在確認と、法人の場合には法人番号の存在確認は行う。 ・システムからの登録のみで作成可能。
2	gBizID プライム	・利用者が法人代表者又は個人事業主本人であることを確認したアカウント。 ・作成に当たっては、書類郵送申請もしくはオンライン申請が可能。 【書類郵送申請】システム上で必要事項を入力の上申請書を作成するとともに、これと併せて法人の場合には印鑑証明書（法務局発行）を、個人事業主の場合には印鑑登録証明書（市町村発行）を提出し、審査を受けたのちアカウントが発行される。 【オンライン申請】 システム上で必要事項を入力の上、事前にスマートフォンへインストールした「Ｇビズ ＩＤアプリ」によってマイナンバーカードの読み取りを行い、身元確認をし、アカウントを発行する。申請にはマイナンバーカードが必要。 法人のオンライン申請は、株式会社、有限会社、合同会社の方が対象となる。オンライン申請可能な法人一覧は、「オンライン申請」⇒対応の会社種類はこちらを確認する。
	gBizID メンバー	・法人又は個人事業主の従業員等のためのアカウント。 ・gBizID プライムが、その管理の下、作成することができる。 ・gBizID プライムと同等の権限を有する。 ・gBizID メンバーは、承認・作成された gBizID プライムに紐付いたアカウントとなる。 ・gBizID プライムが許可したサービスのみ利用できる。
※いずれのアカウントも、事業態様として「法人」又は「個人事業主」を用意。 ※法人代表者印は登記上複数登録も可能であることから、法人によっては gBizID プライムが複数存在することもあり得る。		

2.2. 取得方法

gBizID エントリーアカウントを取得するには、自身で、ＧビズＩＤ基盤（ＧビズＩＤ）上で作成する。

gBizID プライムアカウントは、以下 2 つのいずれかの方法により作成することができる。

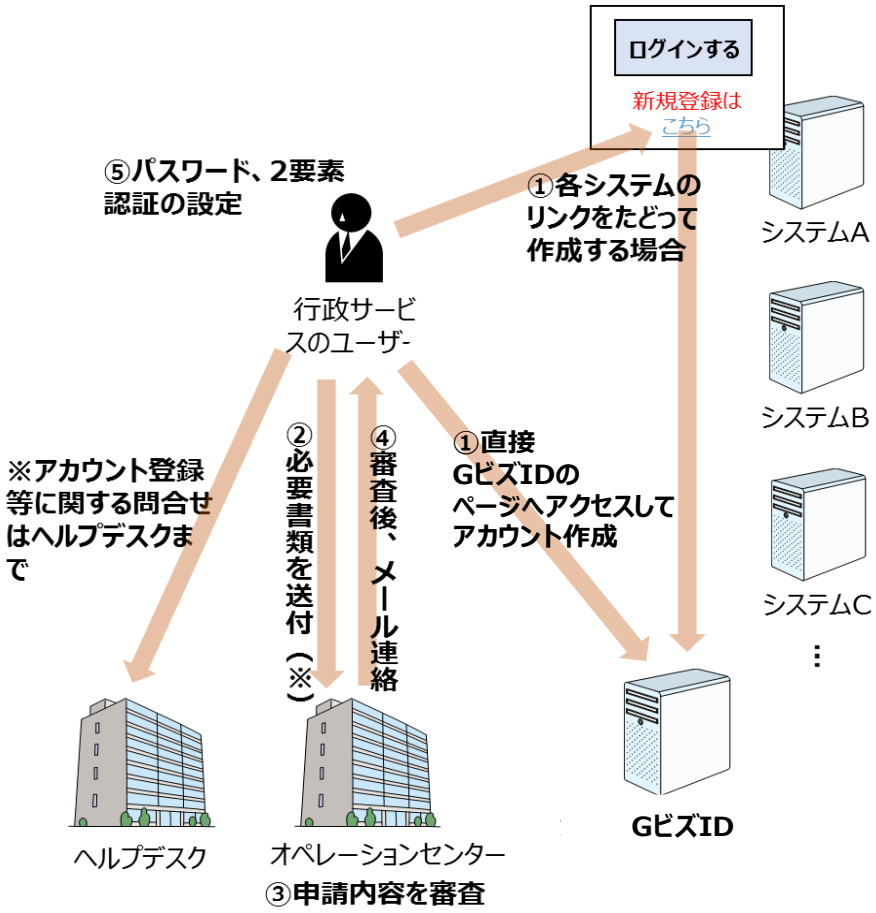
① gBizID エントリーを登録した後に、gBizID プライムへ変更する方法
② gBizID エントリーを取得せず、最初から gBizID プライムとして作成する方法



gBizID メンバーアカウントは、以下 2 つのいずれかの方法により作成することができる。

① gBizID エントリーを登録した者を、gBizID プライム(※)の承認に基づき、gBizID メンバーに変更する方法
② gBizID エントリーを登録せず、gBizID プライム(※)により、gBizID メンバーを作成する方法

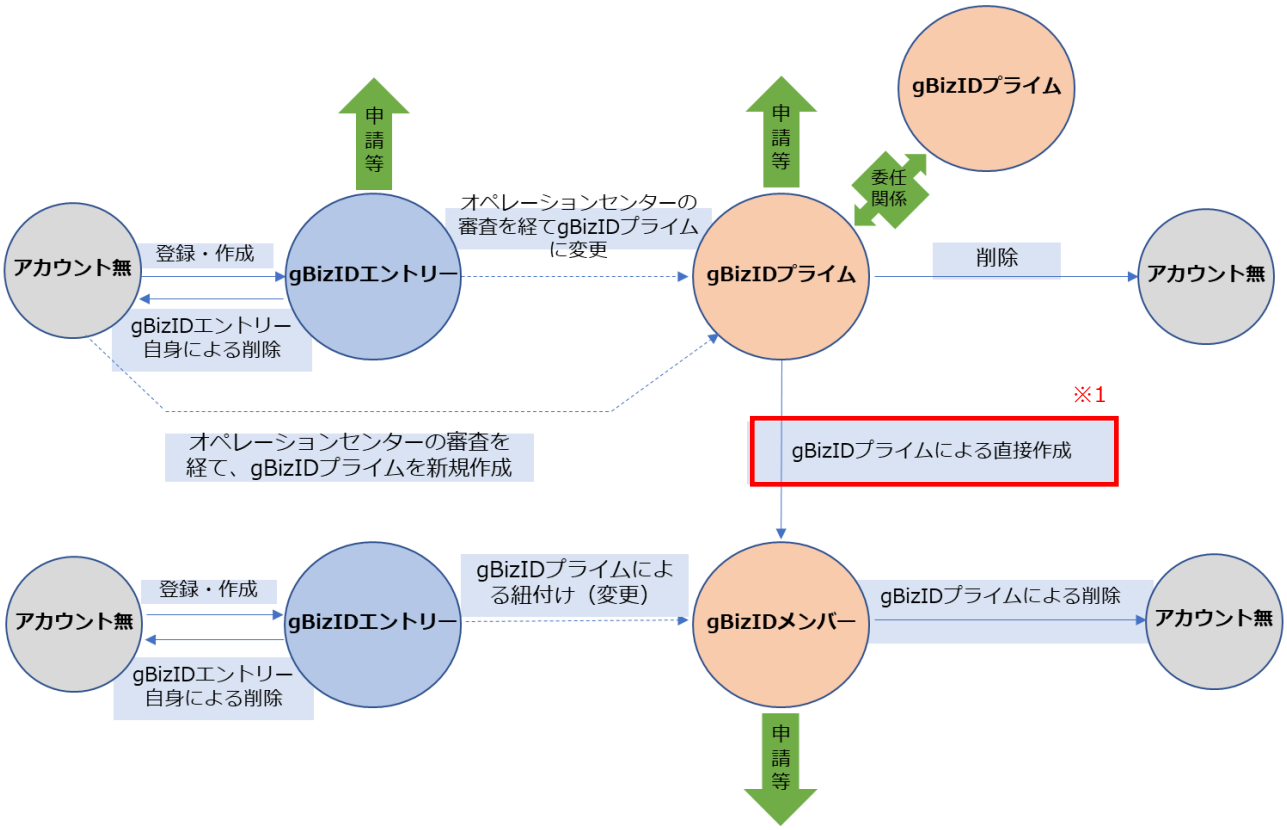
※**アドミン権限を持つ gBizID メンバー**も gBizID プライム同様の操作が可能。



※gBizプライムアカウントの場合のみ②から⑤の工程が必要。
gBizエントリーアカウントは①のみでアカウント登録が完了。

2.3. アカウントライフサイクル

各アカウント種別のライフサイクル（アカウントの状態とその遷移）を図示すると以下のとおり。



※1 gBizID メンバー（アドミン権限を持つメンバーがメンバーを作成することも可能）

2.4. 保証レベル

Ｇビズ ＩＤでは以下のとおり実装している。

タイミング	gBizID エントリー	gBizID プライム	gBizID メンバー
身元確認時	・メールアドレスの存在を確認する。 ・（法人の場合）法人番号の存在を確認する	【書類郵送申請時】 （法人の場合） ・印鑑証明書（法務局発行）と申請書に捺印した印鑑の印影を確認 ・また、身元確認の証左として以下項目が記載された印鑑証明書の原本を保管 －会社法人等番号 －商号 －本店所在地 －代表者氏名 －生年月日 （個人事業主の場合） ・印鑑登録証明書（市町村発行）と申請書に捺印した印鑑の印影を確認 ・また、身元確認の証左として以下項目が記載された印鑑登録証明書の原本を保管 －個人事業主氏名 －印鑑登録証明書の住所 －生年月日 【オンライン申請時】 （共通） ・身元確認の証左として以下項目をマイナンバーカードから取得し、署名データとともに保管 －氏名 －住所 －生年月日 （法人の場合） マイナンバーカードの情報（氏名・住所）と法務省管轄の登記情報を突合	・gBizID プライムが作成する（アドミン権限を持つ場合） ・マイナンバーカードから生年月日を取得し既存の登録情報と確認
当人認証時	・パスワードによる単要素認証により、毎回のアクセスが同一の者により行われていることを確認する	・パスワードおよび所有物認証による 2 要素認証により、身元確認を経たアカウントと同一の者により行われていることを確認する	

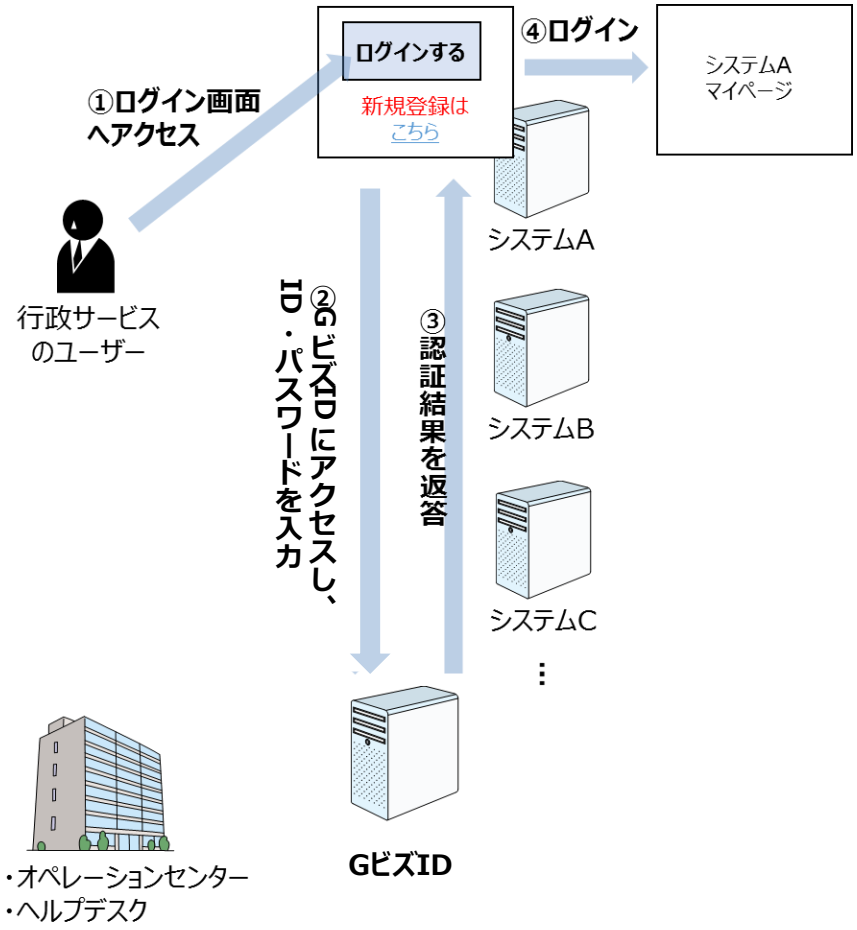
「行政手続におけるオンラインによる本人確認の手法に関するガイドライン」（2019 年 2 月 CIO 連絡会議決定）では各ユーザモデルの保証レベルを以下のとおり定めている。Ｇビズ ＩＤとの関係は以下のとおり整理

される。

必要な保証レベル		オンラインによる手法例	対応するGビズID
身元確認保証レベル	当人認証保証レベル		
レベル１ 身元確認のない自己表明	レベル１ 単一又は複数の認証要素	レベルC	gBizIDエントリー
レベル２ 遠隔又は対面での身元確認	レベル２ 複数の認証要素	レベルB	gBizIDプライム
			gBizIDメンバー
レベル３ 対面での身元確認	レベル３ 耐タンパ性が確保された ハードウェアトークン	レベルA	対応なし

2.5. 利用イメージ

利用イメージは以下の通り。



① **利用したいシステムのログイン画面にアクセスする。**

② **ＧビズＩＤのサーバに遷移するので、アカウント ID 及びパスワードを入力する。**
※入力するアカウント ID は「メールアドレス」。法人番号（13 桁の数字）は、アカウントに紐付く属性をして保有されるものであり、法人番号がアカウント ID となるわけではない。
※また、個人事業主の管理については、個人事業主管理番号（8 桁の英数字）をＧビズＩＤ内で付番する。なお、個人事業主管理番号は飽くまでＧビズＩＤ内の管理番号であり、ユーザには当該番号を表示しない。
※gBizID プライム及び gBizID メンバーについては、２要素認証を行う必要があるため、アカウント ID（メールアドレス）及びパスワードの入力に加え、スマートフォンのアプリケーションにおけるボタン押下等、又は SMS ワンタイムパスワード認証が必要。

③ **認証結果を申請システム側に返す。**
※認証結果を返した後、ＧビズＩＤは、申請経路の通信には関知しない。

④ **認証結果が正しい場合、ログインが成功する。**

2.6. 保持するデータ項目

ＧビズＩＤにおいて保有・管理するアカウント情報の項目は以下のとおり。アカウント種別に応じて、任意／必須の項目があり、必ずしもすべてのアカウントにおいてこれら情報は保有されない。

	項目	補足説明
基本情報	法人番号／個人事業主管理番号	法人の場合は必須 法人番号は半角数字 13 桁（10 進数） 個人事業主管理番号は半角英数字 8 桁（16 進数）
	法人名／屋号	法人番号から取得する（国税庁法人番号公表サイト）
	都道府県	法人番号から取得する（国税庁法人番号公表サイト）
	市区町村＋番地	法人番号から取得する（国税庁法人番号公表サイト）
	代表者名／個人事業主名	
	代表者名フリガナ／個人事業主名フリガナ	
	代表者生年月日	gBizID プライムの場合は、審査項目となるため必須 ※生年月日が不明で登録されている利用者はＧビズＩＤでは以下の通り登録される。 年が不明な場合：1900 月が不明な場合：01 日が不明な場合：01
アカウント利用者情報	アカウント利用者氏名	gBizID プライムの場合は、「アカウント利用者＝代表者」であるため、基本情報とアカウント利用者情報における氏名・フリガナ・生年月日が一致することとなる
	アカウント利用者氏名フリガナ	
	アカウント利用者生年月日	
	連絡先郵便番号	
	都道府県	基本情報からコピー可。コピーしない場合は選択式
	市区町村＋番地	基本情報からコピー可
	マンション名等	基本情報からコピー可
	会社部署名／部署名	
	SMS 受信用電話番号	2 要素認証用（gBizID プライム及び gBizID メンバーのみ）
	連絡先電話番号	
	アカウント ID（メールアドレス）	
	パスワード	
	アカウント管理番号	ユーザを一意に識別するための内部的な ID 桁数不定（10 進数）

※gBizID メンバーは、代表者（gBizID プライム）に紐付くアカウントであり、当該代表者の「基本情報」を受け継ぐ。
※UserInfo で取得できる項目の詳細は 3.3.1 OpenID Connect について参照のこと。
※ＧビズＩＤが保持している情報以外で、利用システム側が必要とする情報は、別途利用システム側で保持する必要がある。
※ＧビズＩＤの文字コードは JIS X 0213:2012。

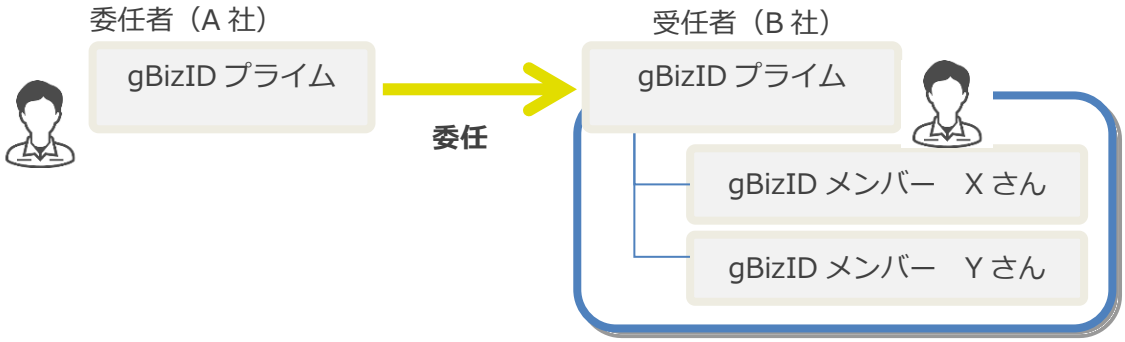
2.7. 委任について

2.7.1. 別事業者との委任について

GビズＩＤでは、電子化された行政手続きの申請時に代行事業者等による代理申請ができるよう、委任関係を管理する機能を有する。委任関係については、委任者企業と受任者企業の gBizID プライムアカウントを指定して登録する。（gBizID プライムアカウント以外のアカウントでは、委任関係は結べない。）

また、受任者企業の gBizID プライムに紐づく gBizID メンバーアカウントは、委任者企業 A 社の申請を可能とする。

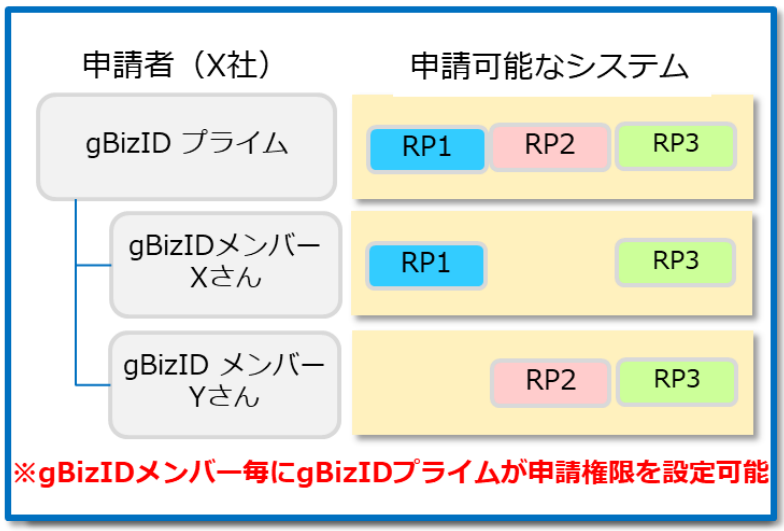
※委任関係は基本的に委任者・受任者両者が gBizID プライムを作成した上で登録を行うが、委任者についてはアカウントがない状態で受任者に委任することも可能。その場合、申請書ベースでの申請となる。



2.7.2. メンバーへの委任について

GビズＩＤでは、gBizID プライムが配下の gBizID メンバーに対して、どの申請システムに申請ができるかを設定できる機能を有する。

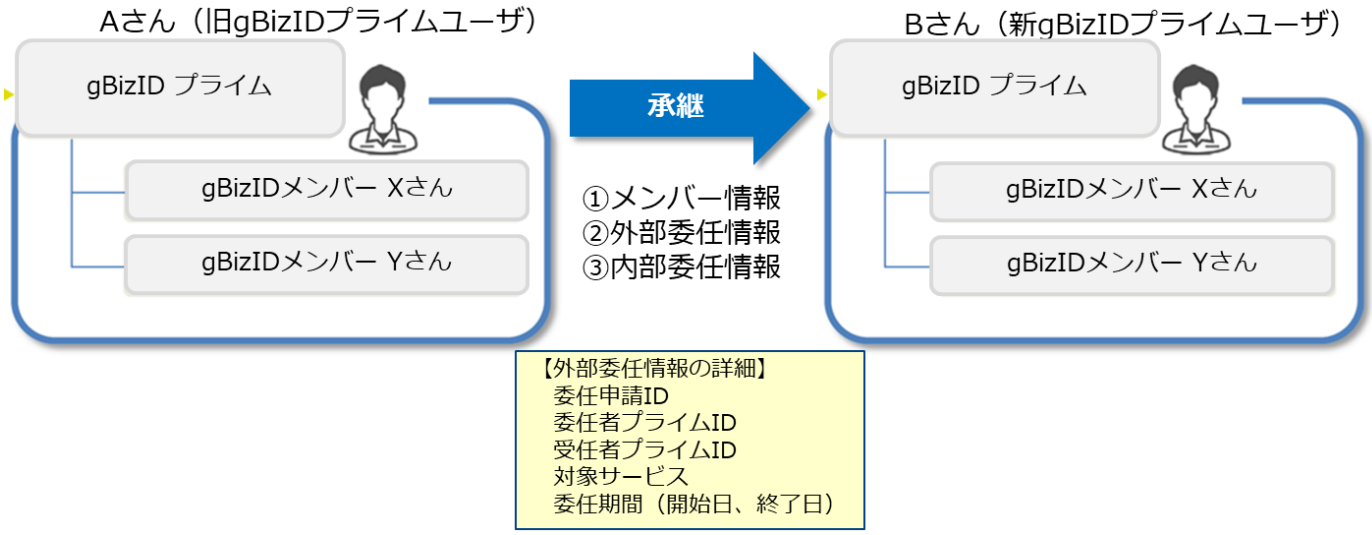
ログインした gBizID メンバーが申請可能なシステムは UserInfo にて取得する。



2.8. プライム承継機能

2.8.1. プライム承継機能について

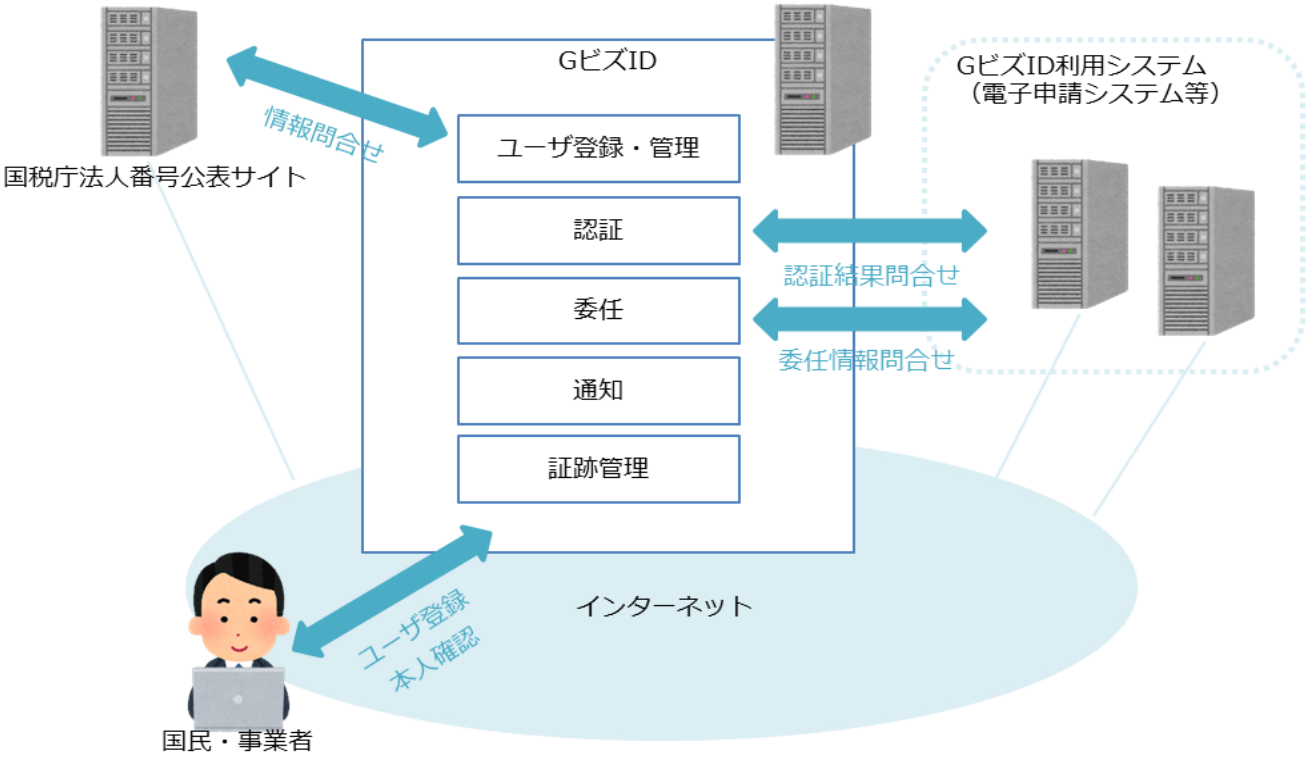
GビズＩＤでは、gBizID プライムが変更になった場合に、旧 gBizID プライムに紐づく各種情報を新 gBizID プライムに承継する機能を有する。
・旧 gBizID プライムに紐づく情報を引き継ぐ。（委任・受任関係およびメンバーの引き継ぎ）
・承継元の旧 gBizID プライムアカウントの無効化または継続かの選択が可能。



3. 提供機能

3.1. システム機能概要

ＧビズＩＤのシステム概略図を以下に示します。



主に以下の機能を提供します。

機能	内容
ユーザ登録・管理	・gBizID エントリー、gBizID プライム及び gBizID メンバーの各アカウントの登録機能、管理機能を提供する。
認証	・2 種類の認証方式を提供する。 （パスワード認証、パスワード認証＋所有物認証） ・本人認証を行うための情報（パスワード、所有物）を管理する。 ・認証結果を OpenID Connect にて利用システムに提供する。その際 UserInfo にて属性情報も提供する。
委任	・gBizID プライム同士で委任関係を結ぶための機能、管理機能を提供する。 ・委任結果を REST-API にて利用システムに提供する。
通知	・アカウント登録などユーザ操作の各種タイミングで事前に登録したメールアドレス又は電話番号（SMS）に必要な通知を行う。
証跡管理	・ＧビズＩＤの証跡を取得し、管理する。

3.1.1. ユーザ登録・管理

以下機能を提供する

機能			各機能を利用可能な ID		
			gBizID エントリー	gBizID プライム	gBizID メンバー
登録		アカウントを作成する	○	○	○
自身のアカウント管理	**プロフィール変更**	自分のプロフィールを変更できる	○	○	○
	パスワード変更	自分のパスワードを変更できる	○	○	○
	メールアドレス変更	自分のメールアドレスを変更できる。 なお、gBizID メンバーは gBizID プライムの操作でのみ変更可能。	○	○	
	SMS 受信用電話番号変更	自分の SMS 受信用電話番号を変更できる		○	○
	gBizID プライム変更申請	gBizID エントリー側の操作で、 gBizID エントリーから gBizID プライムに変更するための申請ができる	○		
gBizID メンバー管理	**gBizID メンバー管理**	gBizID メンバーを確認、登録、変更、退会することができる		○	△ （※）
	gBizID エントリーからの変更	gBizID エントリーを gBizID メンバーに変更するための申請を、当該 gBizID エントリー宛てにすることができる		○	△ （※）
	所属 gBizID エントリー一覧	自組織（法人番号で判別）に所属する gBizID エントリーを一覧で参照することができる。アカウント種別が「個人事業主」の場合はこの機能はない。		○	△ （※）

※**アドミン権限を持つ gBizID メンバー**は gBizID プライム同様に利用可能。ただし自身が作成した gBizID メンバーのみを管理が可能。

詳細はマイページ操作マニュアルの 1.3. 操作一覧を参照。

3.1.2. 認証

以下 2 種類の認証方式を提供する

認証方式	内容	対象アカウント
単要素認証	パスワード認証方式	gBizID エントリー
２要素認証	パスワード認証＋所有物認証方式	gBizID プライム gBizID メンバー

3.1.2.1 **パスワードポリシー**

パスワードポリシーは以下のとおり。

・利用可能文字は半角英数記号。
・ブランクを許容する。（パスフレーズを許容する。「My name is YamadaTarou@」など）
・複数文字種は求めない。
・長さは 8 桁以上。システム的には 100 桁まで入力可能。
・ＧビズＩＤにおいて設定される「NG ワード」と一致するパスワードの設定は不可。
（「password1」「1qaz2wsx」など）
・パスワードリセットのためのヒント情報（例：『飼っているペットの名前は？』など）は持たない。
・定期的な変更は求めない。

また、アカウント ID／パスワードによる認証を 10 回連続で失敗することにより、パスワードロックが

かかる。この場合、自身でのパスワードリセットによる解除が必要となる。

3.1.2.2 所有物認証

以下の 2 種類の所有物認証機能を提供する。gBizID プライム及び gBizID メンバーは、２要素認証により利用しなければならず、単要素認証による利用は不可。
初回はワンタイムパスワード認証を実施する必要があるが、以降はスマホアプリの利用を推奨する。
（ガラケーなどスマホアプリの利用ができない場合はワンタイムパスワード認証を継続利用する。）

なお、2024 年以降、ＧビズＩＤ本番環境におけるワンタイムパスワード認証は廃止する予定であるため、ユーザにはスマホアプリ認証の切り替えを推奨している。（詳細の廃止時期は現在未定のため、決まり次第周知予定。）

スマホアプリ認証	ワンタイムパスワード認証
ボタン認証の場合　指紋認証の場合 	
・アカウント登録後、マイページからスマホアプリのダウンロードが可能。 ・スマホアプリ登録後は、パスワード認証後、スマホアプリで認証行為を行うことで、指紋認証又は顔認証（機種や設定により異なる）をしてログイン。 ・アプリケーションは、iPhone 及び Andorid 端末に対して提供する。iPhone のうち、TouchID や FaceID に対応している端末の場合には、指紋認証や顔認証を利用することができる。 ・また、iOS の生体認証（TouchID/FaceID）が失敗した場合は以下のとおりとなる。 －PIN 認証が有効な場合：PIN 認証画面を表示 －PIN 認証が無効な場合：ボタン認証画面を表示	・登録時に登録した SMS 受信用電話番号に、SMS にてワンタイムパスワード（6 桁数字）を送信する。 ・利用者はそのワンタイムパスワードを Web 画面上で入力することでログインできる。 ・ワンタイムパスワードの有効期限は 1 時間。 ・SMS 送信数の上限は 1 日あたり同一番号に対して５０通。

＜その他＞
・いずれの場合も、Cookie による端末確認を行う。未使用利用端末（新しい端末）からアクセス・ログインした場合、利用者に対しメールによるログイン通知を行う。

3.1.2.3 認証結果の提供

OpenID Connect の Authorization Code Flow の標準に従い提供する。
詳細は「3.3.1 OpenID Connect について」を確認のこと。

3.1.3. 委任

以下の機能を提供する。

機能			各機能を利用可能な ID		
			gBizID エントリー	gBizID プライム	gBizID メンバー
委任/受任	委任先一覧・委任申請	gBizID プライムが、委任先の管理、及び委任の申請ができる。	-	○	-
	受任	別の gBizID プライムアカウントから依頼された委任申請について、受任の承認や、受任情報の確認等を行うことができる。ただし、gBizID メンバーは一覧確認のみを行うことができ、承認/否認などの操作は行えない。	-	○	○ (一部)

3.1.3.1 委任結果の提供

受任情報を確認できる REST-API で提供する。
詳細は「3.3.2 委任情報取得 API について」を確認のこと。

3.1.4. 通知

各種ユーザ操作のタイミングで、以下のようなメール又は SMS を利用者に送信する。
ユーザは、送信されたメール等の内容に応じて、所要のアクションを行うこととなる。

3.1.4.1 **メール通知**

（メール通知文面の例①：gBizID プライムアカウント登録完了時）
From: support@gbiz-id.go.jp
To: <gBizID プライムとして登録した方のメールアドレス>
Title: 【Ｇビズ ＩＤ】アカウント登録完了のお知らせ

sample

山田　太郎　様

こちらは G ビズ ID です。
gBizID プライムアカウントの登録が完了しました。

アカウント ID：yamada.tarou@example.co.jp

※本メールは自動送信されています。このメールに返信いただいても回答できません。あらかじめご了承ください。

G ビズ ID
https://gbiz-id.go.jp

(c) 2019 Digital Agency, Government of Japan.

（メール通知文面の例②：gBizID エントリーアカウント登録時のメールベリファイとして送信）
From: support@gbiz-id.go.jp
To: <メールアドレス登録画面にて入力したメールアドレス>
Title: 【Ｇビズ ＩＤ】アカウント情報登録手続き URL のお知らせ

sample

※アカウント登録手続きはまだ完了しておりません。※

こちらは G ビズ ID です。
以下の URL より、アカウント情報を登録してください。

URL：　<※アカウント登録用の URL を記載>
有効期限：<※有効期限を記載>

※上記 URL は 1 度しかご利用いただけません。
※有効期限を過ぎた場合、「アカウント新規登録」画面から再度手続きを行ってください。

※本メールは自動送信されています。このメールに返信いただいても回答できませんので、あらかじめご了承ください。

G ビズ ID
https://gbiz-id.go.jp

(c) 2019, Digital Agency ,Government of Japan.

このほかの主なメール通知タイミングは以下のとおり。

・アカウント登録・変更中（ログイン用 URL 通知等）
・パスワードリセット
・一度もログインしたことのない端末からログインがあったとき
・委任/受任の登録中（受任の依頼があった/委任が承認された）
・gBizID メンバーへの承認通知

3.1.4.2 **SMS 通知**

（SMS 通知文面）
To: <対象のアカウントの SMS 受信用電話番号>

sample

Ｇビズ ＩＤ

ワンタイムパスワード：<※6 桁の数字が記載>

上記のワンタイムパスワードが通知される主なタイミングは以下のとおり。
・２要素認証用のワンタイムパスワードを通知する場合
・gBizID プライム又はメンバーアカウントのメールアドレス（アカウント ID）や SMS 受信用電話番号を変更する場合
・gBizID プライムアカウント登録時
・gBizID エントリーアカウントを gBizID メンバーアカウントに変更する場合

SMS 通知には送信数の上限（１日あたり同一電話番号に対する送信数は 50 通）があるため、上限を超えるとエラーが発生する。エラーが発生した場合は１日経過すると SMS が通知されるようになる。

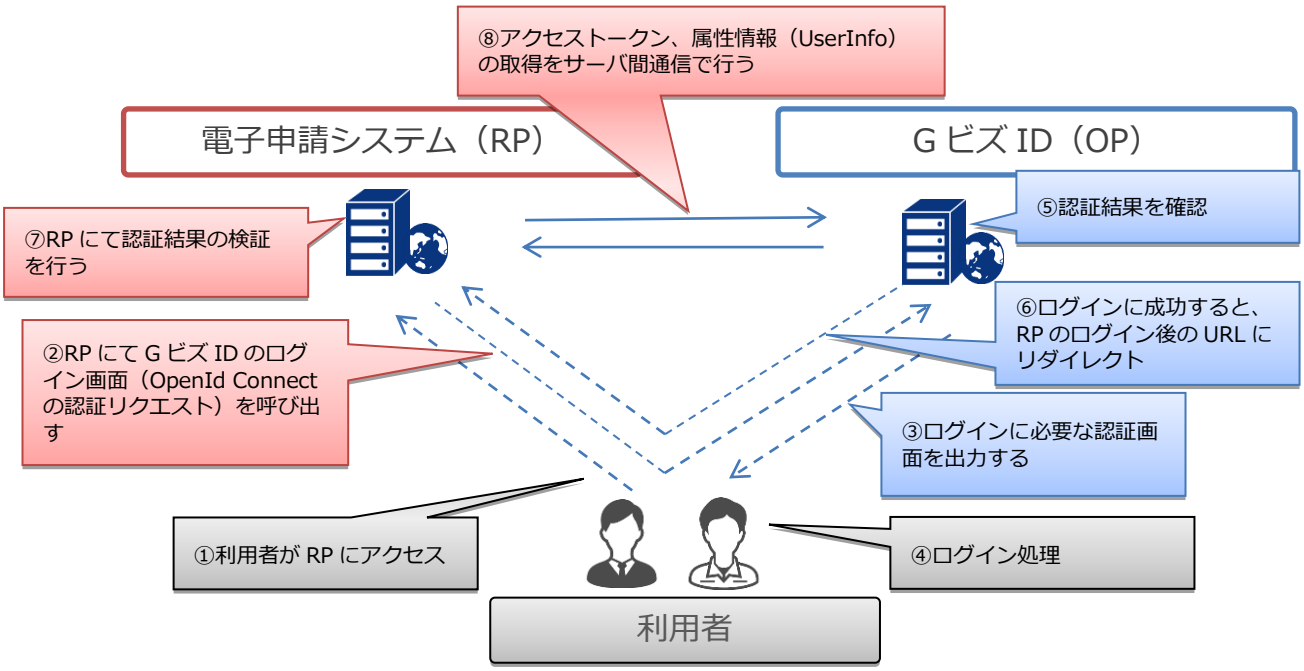
3.1.5. 証跡機能

ログイン履歴などの各種証跡ログを取得。提供については gBiz アカウント担当と調整のこと。

3.2. RP 設計のポイント

RP（電子申請システム）設計時の設計ポイントについて以下にまとめる。

3.2.1. RP 経由でのログインに関する処理概要



No.	処理者	処理	説明
①	利用者	RP にアクセス	・利用者はまず RP にアクセスする ・RP はＧビズＩＤにログインするボタンを配置すること。ボタンについては「３.2.３ログインボタン配置ポリシー」参照のこと
②	RP	認証リクエスト	・OpenID Connect の認証リクエストを呼び出す 詳細については「３.3.1OpenID Connect について」参照のこと
③	ＧビズＩＤ	ログインに必要な認証画面を出力する	・OpenID Connect フローに従い処理 ・ID/パスワード画面を出力 （2 要素が必要な場合、ID/パスワード入力後 2 要素目も求める） ・別 RP にログイン済みでＧビズＩＤの認証 Cookie が有効な場合、シングルサインオンとなりこの処理はスキップされる
④	利用者	ログイン処理	・ＧビズＩＤから出力された ID/パスワード画面に入力する（2 要素が必要な場合、そちらにも応える）
⑤	ＧビズＩＤ	認証結果を確認	・認証結果を確認する
⑥	ＧビズＩＤ	認証レスポンス	・RP に認証レスポンスを返し、リダイレクトする ・このタイミングで各種 Cookie を設置する Cookie の種別とタイムアウトについては「3.2.4Cookie およびトークンについて」参照のこと
⑦	RP	認証結果の検証	・認証レスポンスで受け取った内容を検証
⑧	RP	アクセストークン取得リクエスト、 属性取得リクエスト	・アクセストークン取得リクエストによりアクセストークンを取得し ID トークンを検証する ・必要に応じアクセストークンをもとに属性取得リクエストを実施、属性情報を取得する 詳細については「3.3.1OpenID Connect について」参照のこと

3.2.2. アカウント種別による制御

Ｇビズ ＩＤでは、アカウント種別に応じて 1 要素認証と、2 要素認証の 2 つのケースがある。ただし RP 側でいずれのアカウントでも 2 要素認証を行う必要がない場合、1 要素認証のみとすることも可能。

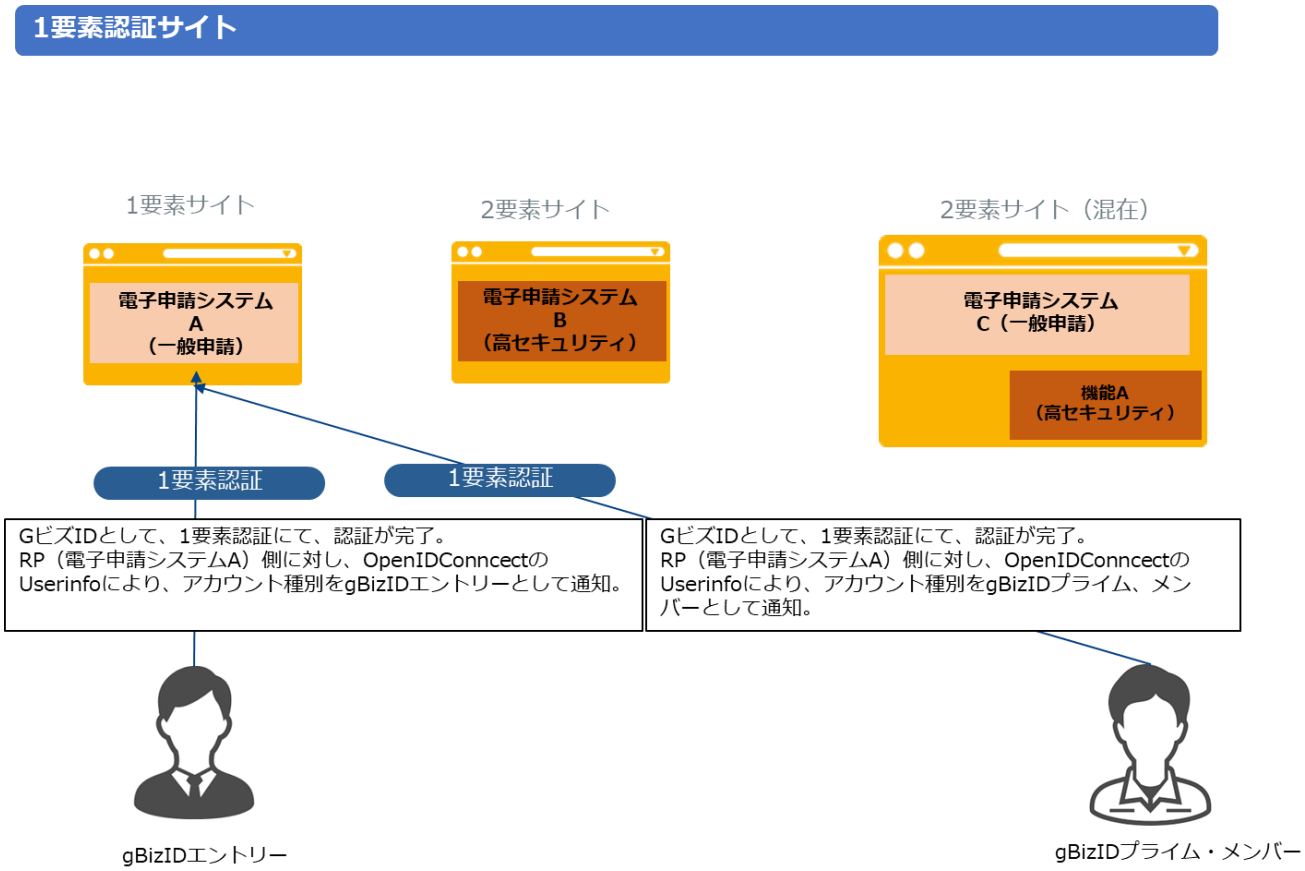
Ｇビズ ＩＤに RP 登録する際、該当 RP が 1 要素認証のみとするサイトか、2 要素認証を必要とするサイトかを選択して登録する。サイト内で混在する場合は 2 要素サイトとして登録する。

（混在とは、サイト内に 1 要素だけで対応できるメニューと 2 要素を必要とするメニューが混在する場合のこと。）

◆実装のポイント：

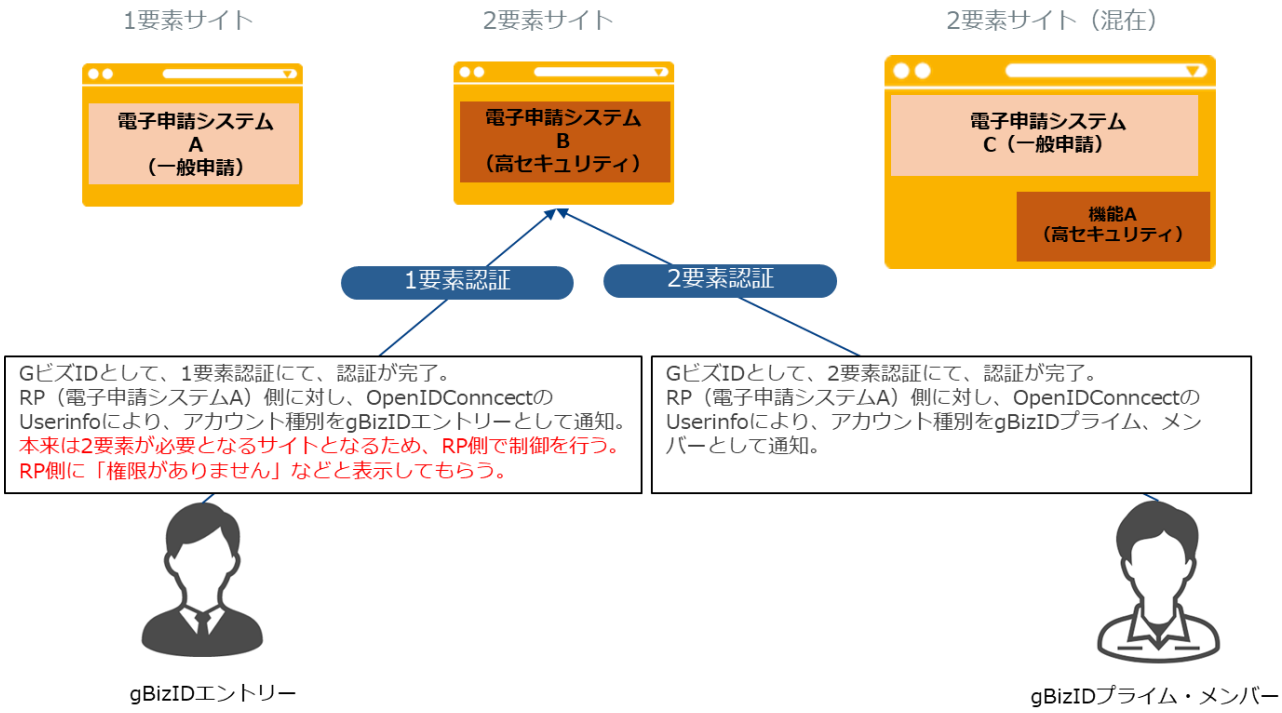
アカウント種別に応じた処理の制御が必要な場合、OpenIDConncect の Useinfo にて返却されるアカウント種別を参照し、それに応じた処理を RP 側で実装する必要がある。

具体的には、2 要素認証を必要とするサイトでは、アカウント種別が gBizID エントリーで認証成功となっていても RP 側でエラーとするよう実装する必要がある。



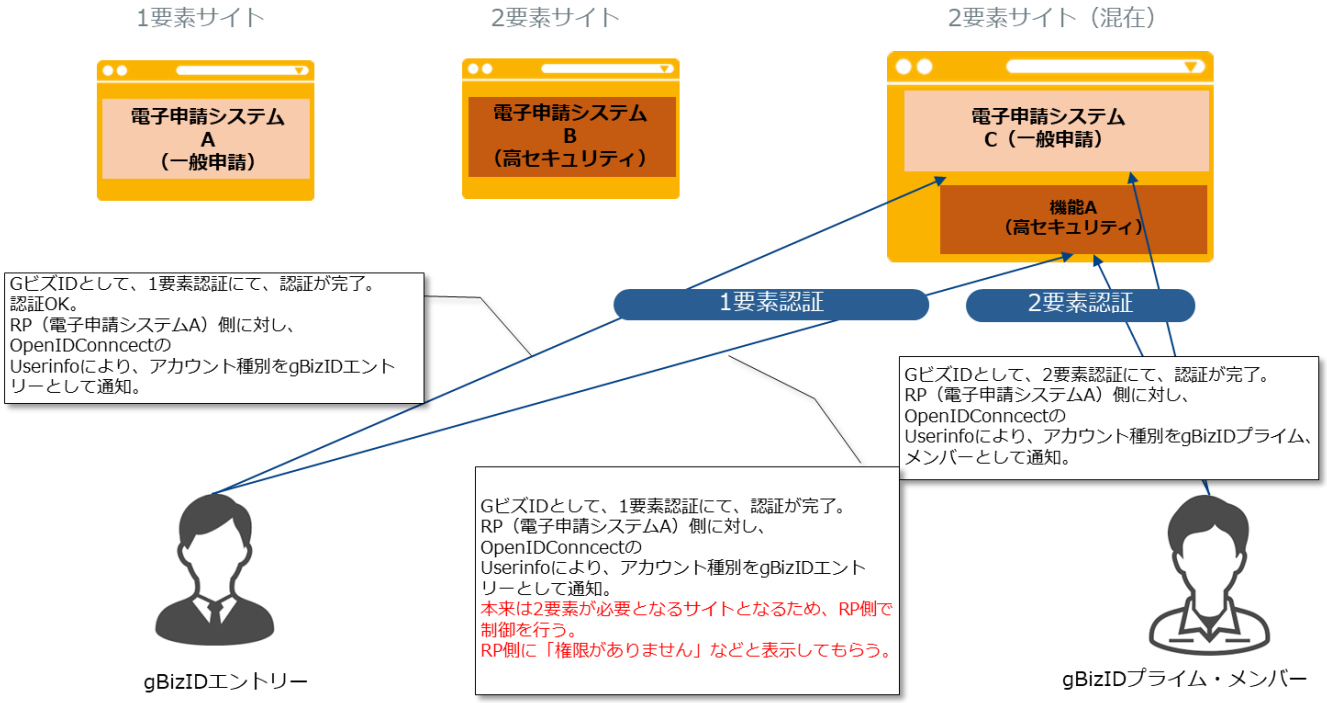
2要素認証サイト

2要素サイト（電子申請システムB）については、アカウント種別がgBizエントリーである場合、
RP側でエラーとするよう実装いただく必要があります。

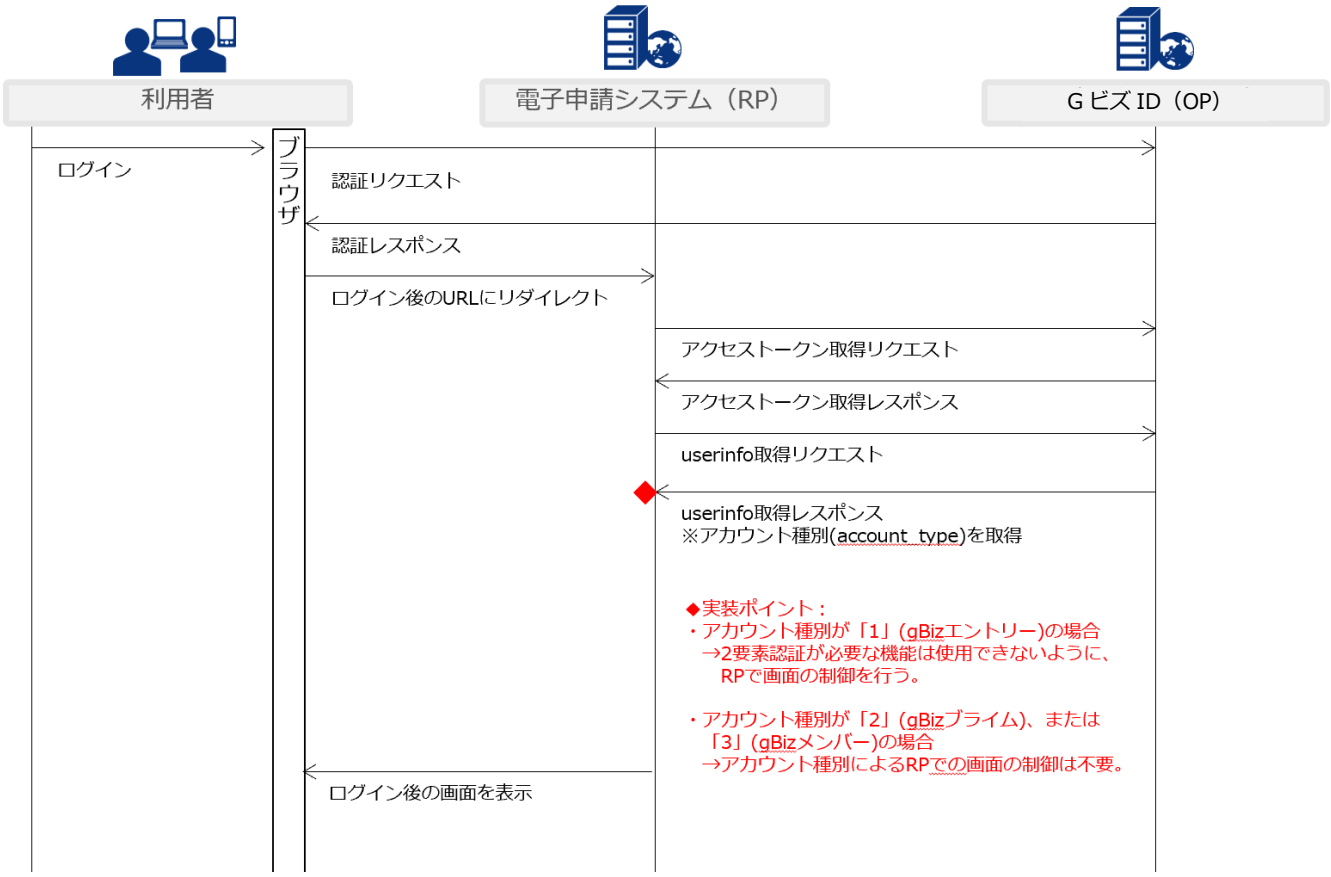


2要素認証サイト（混在：1つのRPで、高レベル申請と一般申請を受け付ける場合）

2要素サイト（混在）（電子申請システムC）について、2要素を必要とする機能Aを利用する際、
アカウント種別がgBizエントリーである場合は、
RP側でエラーとするよう実装いただく必要があります。



アカウント制御フロー（2要素認証サイトの場合）



3.2.3. ログインボタン配置ポリシー

各 RP においては、以下それぞれ定めるところによりデザインし、ログインボタンを設置するものとする。

- 遵守事項
  - ・ Ｇビズ ＩＤのアイコンの色（※）を基調とすること。
    文字の色：#1A1A1C、地の色：#FFFFFF
  - ・ 「Ｇビズ ＩＤ」及び「ログイン」という２つのワードを使用すること。

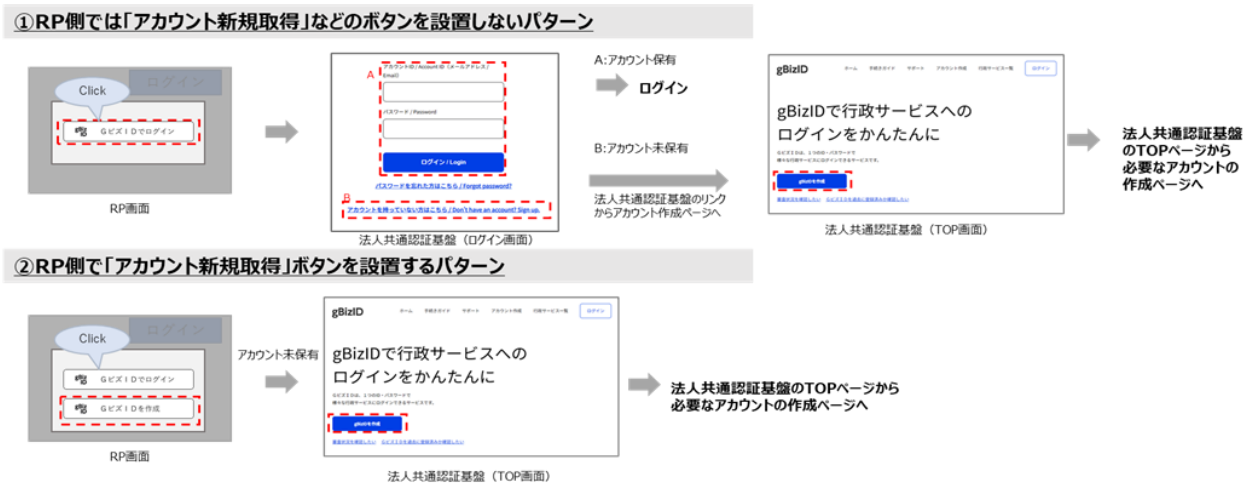
- 推奨事項
  - ・アイコンを使用する。

- その他自由設定事項
  - ・ フォント、フォントサイズ
  - ・ 文字、アイコン等の配置

アイコン

ログインボタンのデザイン（あくまで例であり、これらに限るものではない。）

（参考）
　各行政サービス（RP）におけるログイン画面では、上述のポリシーに従うログインボタンのほか、アカウントを保有していない者に対して『アカウント取得を誘導するルート』が必要となるところ。これについては、いくつかのパターンが考えられ、その例を以下に示すので参考としていただきたい。
（※下図の画面はイメージ）



3.2.4. Cookie およびトークンについて

項目	説明	タイムアウト時間
ログインセッションCookie	ＧビズＩＤへのログイン状態を維持する Cookie。 有効な場合、ブラウザを閉じる前であれば、 ID、PWの入力を省略してログインが可能となる。 ブラウザを閉じた後も、1要素または2要素Cookieが有効期限内であればログインセッションCookieが生成される。	ブラウザを閉じるまで
1要素認証Cookie	ID、PW での認証が済であることを保持する Cookie。 有効な場合、ブラウザを閉じた後も、 ID、PWの入力を省略してログインが可能となる。	8時間
2要素認証Cookie	OTP またはアプリによる認証が済であることを保持する Cookie。 有効な場合、2要素目の認証が省略される。	3時間
端末Cookie	初めて利用する端末（ブラウザ）かどうか判別するための Cookie。 初めて利用する端末（ブラウザ）でログインするときには、メール通知が行われる。※	10年
アクセストークン	userinfoの取得に使用する。	1時間
IDトークン	認証と認可の情報を含むトークン。	10分
リフレッシュトークン	アクセストークンの再取得に使用する。	30日

※ブラウザのCookieが維持できない環境下では、ログインの都度メール通知が行われる可能性がある。

3.2.5. 再認証要求

GビズＩＤでは、OpenID Connect 標準の Authorization Code Flow に準拠したシングルサインオン機能を提供している。1 度認証を行えば（SSO 認証）、その SSO 認証情報（ログインセッション Cookie）が有効である限り、ユーザは RP 毎に ID/パスワード入力を求められることなく、各 RP が提供する Web サービスを利用できる。

一方、RP 側からの要件として「たとえユーザの SSO 認証が完了している場合であっても、重要なサイトへのアクセスについては再度ユーザの認証（再認証）を行いたい」といったケースや、「共有 PC などでログアウトし忘れたまま離席した際に、当該マシンを第三者に悪用されるリスクを排除したい」といったケースがある。このようなケースに対応するために、OpenID Connect 標準ではユーザ認証を RP 側から明示的に要求する方法が規定されている（以下、この方法を「再認証要求」と呼ぶ）。

3.2.5.1 **再認証の要求**

GビズＩＤでは、OpenID Connect 標準に準拠した下記 2 つのパラメータを実装している。明示的な再認証を要求する場合、RP は通常の認可リクエストに下記 2 つのパラメータを追加する。

(1) prompt パラメータ

RP から通常の認可リクエストを受信した際、ユーザの SSO 認証情報が有効であれば、GビズＩＤはユーザへのログイン画面表示は行わない。しかし、認可リクエストの prompt パラメータに値 login が設定されている場合は（prompt=login）、ユーザの再認証が明示的に要求されていると判断し、たとえ当該ユーザの SSO 認証情報が有効であってもログイン画面を表示し、ユーザに対して再度認証を行うよう促す。

(2) login_hint パラメータ

認可リクエストの中で login_hint パラメータが設定されている場合、GビズＩＤはログイン画面を表示する際の ID 情報の初期値として、当該パラメータに設定された値を表示する。本パラメータにGビズＩＤのアカウント ID（メールアドレス）を設定すれば、再認証時のユーザ利便性を高めることができる。

3.2.5.2 **再認証の検証**

再認証の実施結果として ID トークンを受信した RP は、ID トークンの検証を行わなければならない。このとき、再認証の実施結果にかかる下記 2 点についても合わせて確認する必要がある。

(1) ユーザ同一性の確認

ログアウトし忘れた共有 PC を第三者に悪用されるリスクに対する対抗策として再認証を利用するケースでは、再認証の前後の ID トークンに含まれる iss クレーム（ID トークンの発行者）と sub クレーム（ユーザ識別子）をそれぞれ比較することによって同一ユーザによる再認証であることを確認する。これにより、別ユーザによる再認証の突破を防止することができる。

(2) 再認証の実施確認

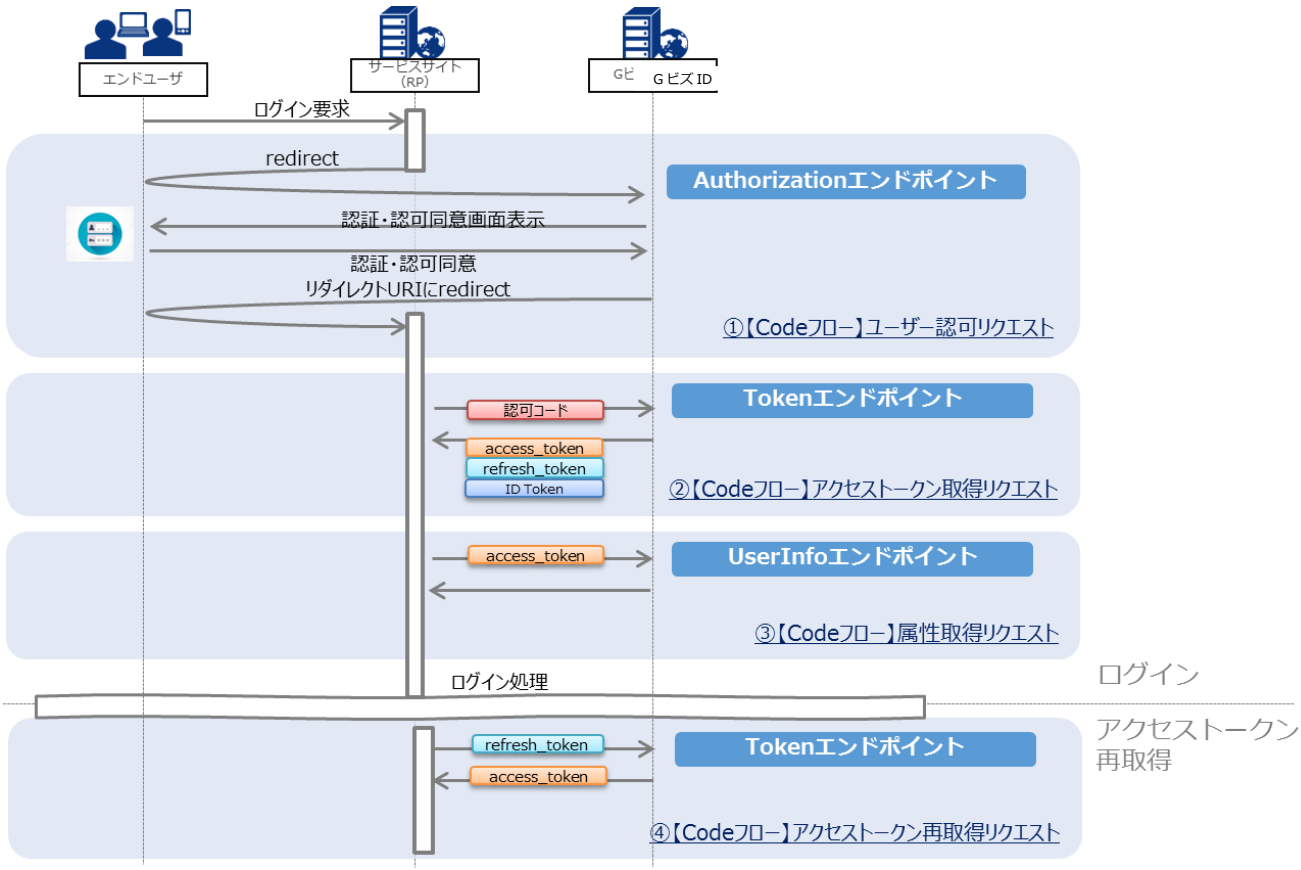
RP からの認可リクエストはブラウザ経由のリダイレクトによりGビズＩＤへ到達するため、厳密に言えば、認可リクエストのパラメータはブラウザ操作者によって改ざん・追加・削除することができる。もし、prompt=login パラメータが削除されてしまうと、GビズＩＤ側で再認証が行われず、RP もそれに気づくことができない。

ID トークンに含まれる auth_time クレームは、このような再認証の回避を防止するために利用される。auth_time クレームにはユーザ認証時刻の UNIX タイムスタンプが設定されるため、再認証要求後に取得した ID トークンをチェックした際に、auth_time の値が妥当な範囲で現在時刻に近い時刻である（もしくは、再認証要求の送信時刻よりも後である）ことをもって、RP は確実に再認証が行われたことを確認ができる。

3.3. API 詳細

3.3.1. OpenID Connect について

Gビズ I Dは、OAuth 2.0 (RFC6749)をベースとするアイデンティティ連携プロトコル「OpenID Connect(https://openid.net/connect/)」の Authorization Code Flow に準拠した OpenID Provider(OP)である。



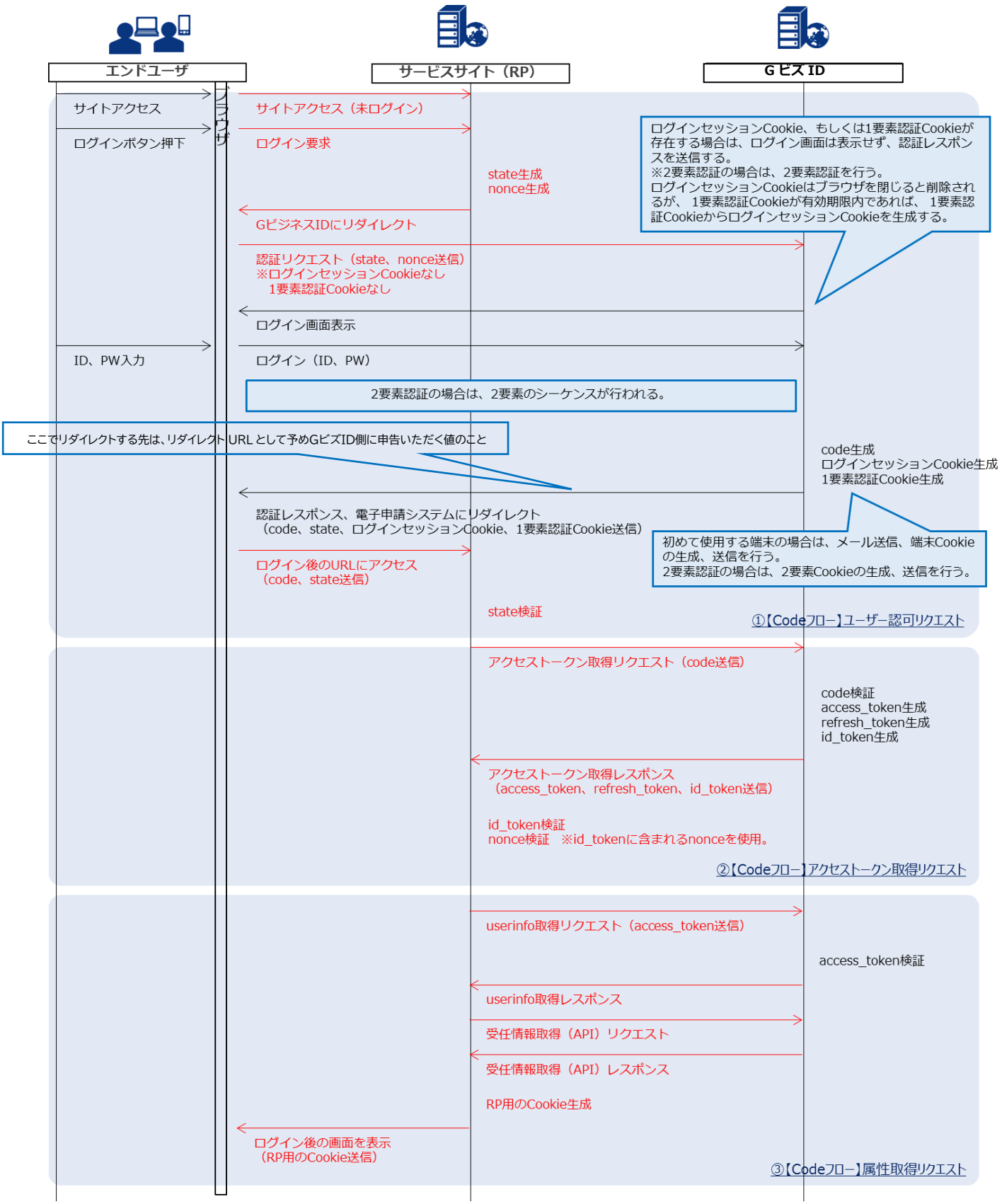
3.3.1.1 全体シーケンス

OpenID Connect に関する用語は以下の通り。

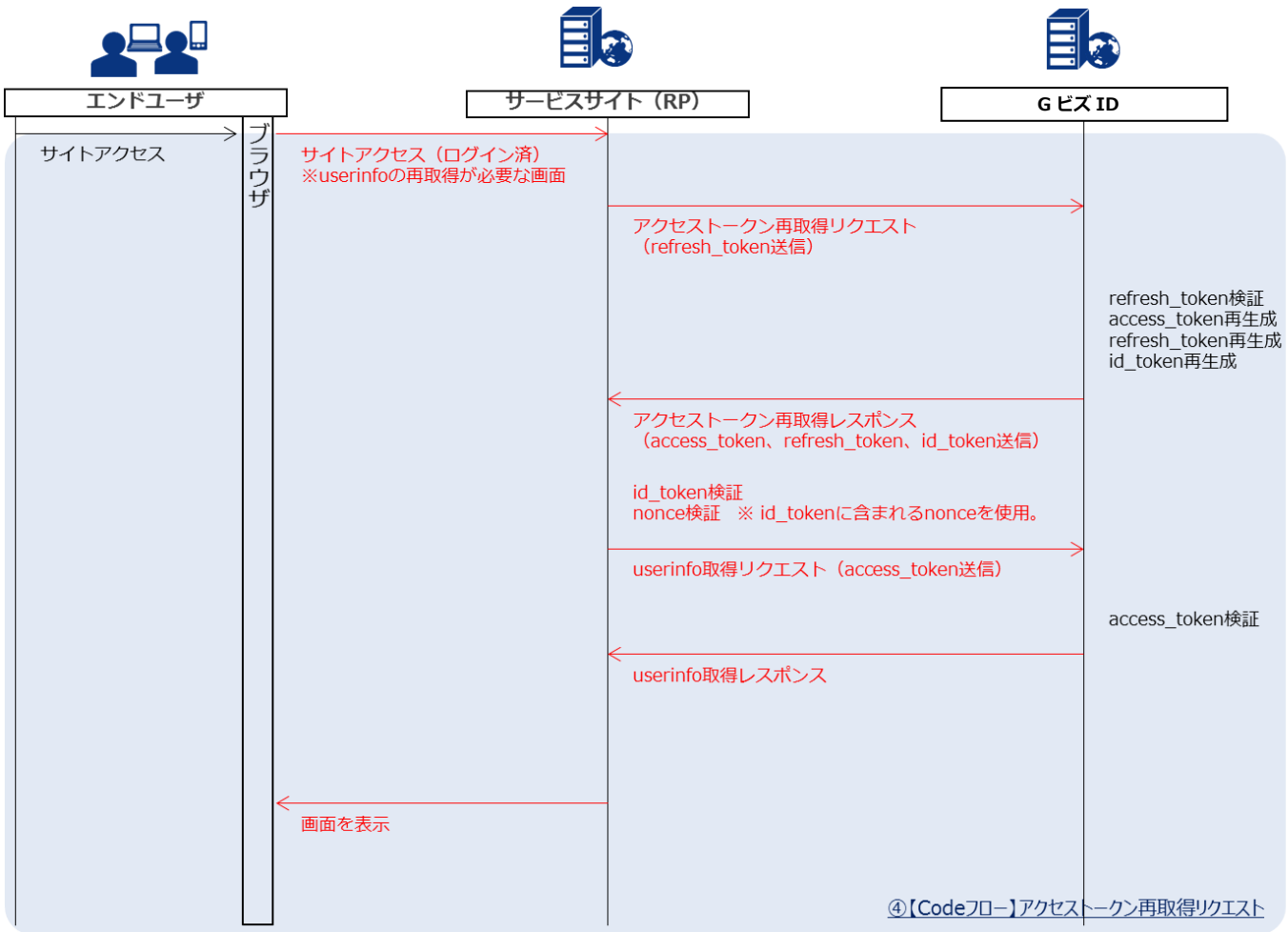
用語	説明
OpenID Provider (OP)	ユーザの認証を行う機能を有するサーバ。また、ユーザの認証時に Relying Party から要求されたアイデンティティ情報を供給することができる REST エンドポイントを有するサーバ。 ※GビズIDのこと。
Relying Party (RP)	OpenID Provider に ID Token とアイデンティティ情報を要求するサーバ。シングルサインオン対象のアプリケーションを指す。 ※電子申請システムのこと。
ID Token	認証と認可の情報を含む JWT(JSON Web Token)形式のトークン。
Access Token	UserInfo エンドポイントにアクセスするためのトークン
UserInfo	Access Token を提示するクライアントに対して、各種属性情報等アイデンティティ情報を提供する。

（参考）
OpenID Connect の RP として、この認証プロセスを実装するにあたっては、OpenID Connect Foundation が認定したライブラリまたはサービスの採用を推奨する。
https://openid.net/developers/certified/
— Certified Relying Party Libraries
— Certified Relying Party Servers and Services

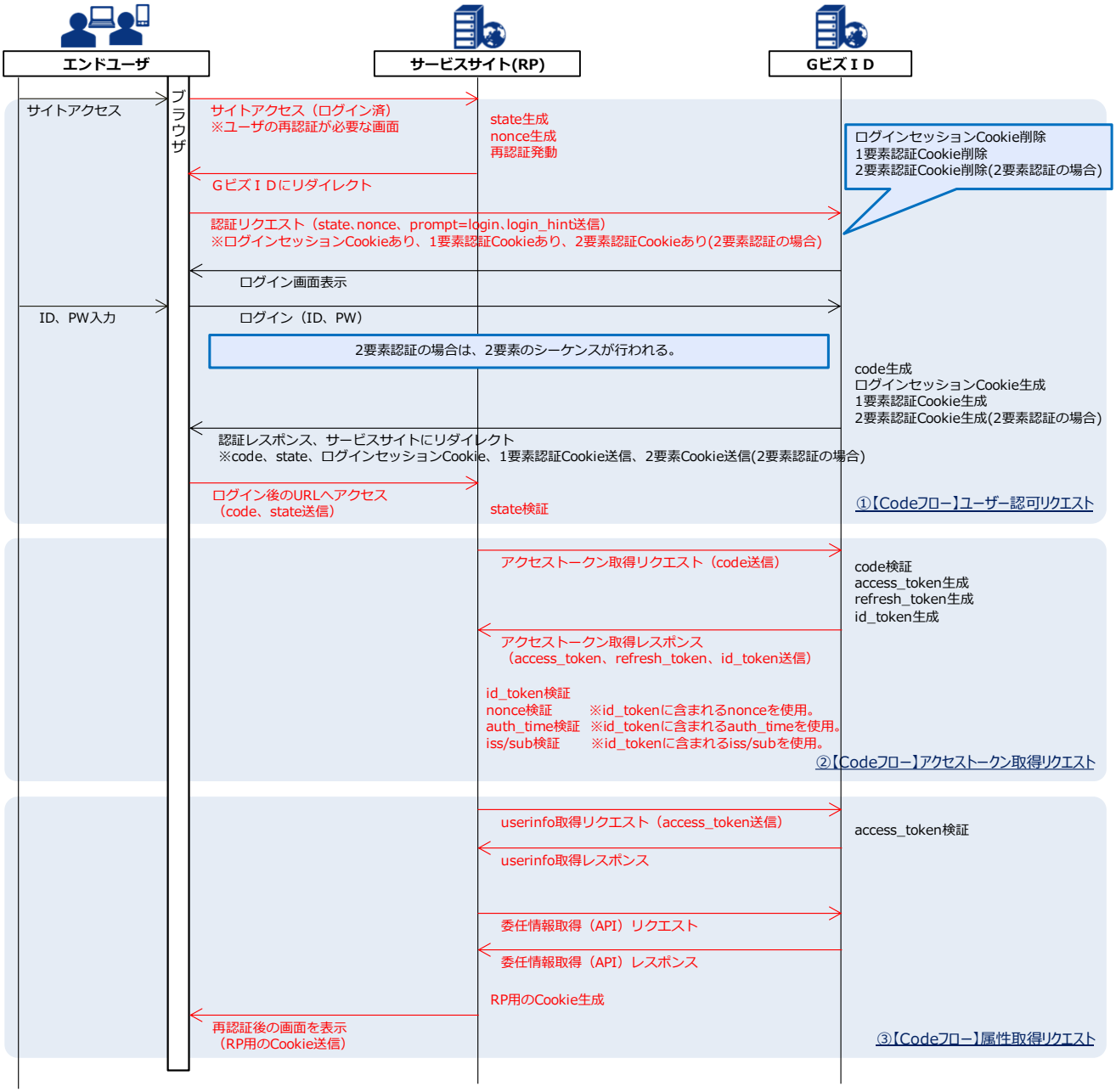
ログインフロー
赤字は RP に関連するフロー



アクセストークン再取得フロー
赤字は RP に関連するフロー



ユーザ再認証フロー
赤字は RP に関するフロー



3.3.1.2 ユーザ認可リクエスト

（1）認証リクエスト

Authorization エンドポイント（ユーザの認可を得るためのエンドポイント）へ以下リクエストを発行することで、ユーザの認証状態・認可状態を判定し、適切なページへリダイレクトさせ、認可コードを返します。

リクエスト URL

メソッド	GET
URL（本番）	https://gbiz-id.go.jp/oauth/authorize

リクエストヘッダ

ヘッダ名	設定値	備考
-	-	-

リクエストコンテント

パラメータ名	データ型	必須	備考
response_type	String	○	「code」： code フロー
client_id	String	○	RP 毎に予め定義する[Client ID]
redirect_uri	String		RP 毎に予め定義する[ログイン成功時にリダイレクトする URL] ※gBizID でのログイン成功時にリダイレクトする RP 側の URL のこと。 ※デフォルトはマイページ画面
scope	String		RP 毎に [scope]の中から取得したい情報を設定 ※指定しない場合、当該 RP で利用できる全ての scope を自動設定 ※１つ以上指定する場合、"openid"必須（【Code フロー】属性取得リクエストで scope 不正エラー）
nonce	String		リプレイ攻撃防止用のパラメータ。クライアントのセッションと OP が払い出す ID Token を関連付けるためのパラメータ。
state	String		リクエストとそれに対するコールバックとの間の状態を保守するために使用されるパラメータ
prompt	String		「login」: 再認証要求（ログイン済ユーザであっても再度ユーザ認証を行う場合に設定）
login_hint	String		認証で使用する ID 情報のヒント（ログイン画面のアカウント ID に表示する文字列を設定）

リクエストサンプル

```
https://gbiz-id.go.jp/authorize?client_id=service1&redirect_uri=http%3A%2F%2Fxxxxx%2Ftop
&response_type=code&scope=openid%20email%20profile&nonce=xxx&state=whmpfk
&prompt=login&login_hint=testuser@sample.com
```

リクエストコンテントはリクエスト URL のクエリパラメータに格納ください。

レスポンス
認証基盤のログイン画面が出力されます。

（2）ログイン後の URL アクセスリクエスト
（1）の認証リクエストの結果ユーザがログイン操作を実施すると、リダイレクトにより認可コード送信リクエストが発行されます。

リクエスト URL

メソッド	GET
URL（本番）	RP 毎に予め定義する[ログイン成功時にリダイレクトする URL]

リクエストコンテント（正常時）

パラメータ名	データ型（最大文字数）	必須	備考
code	String(22)	○	認可コード ※半角英数字 22 桁 ※有効期限：5 分
state	String		リクエスト時に保存していた値をコールバック時の値が一致するか確認してください。一致しない場合には CSRF の可能性があるため TokenF へのリクエストは実行しないでください。

リクエストサンプル（正常時）

```
[ログイン成功時にリダイレクトする URL]?code=NFwzQ1fPsTXJCTZpZqLJ95&state=ZZZZZZ
```

リクエストコンテント（エラー時）

パラメータ名	データ型	必須	備考
error	String		エラーコード
error_description	String		エラー内容の詳細な説明
state	String		リクエスト発行時に指定した state の文字列
scope	String		リクエスト発行時に指定した scope の文字列

エラーコード

値	説明
invalid_request	パラメータ不正
access_denied	認可拒否
invalid_scope	サポート外のスコープ
unsupported_response_type	サポート外のレスポンスタイプ
invalid_grant	redirect_uri が設定したものと異なる。 ※認証基盤にてエラー画面を表示
invalid_client	client_id が不正 ※認証基盤にてエラー画面を表示

リクエストサンプル（エラー時）

RP 毎に予め定義する[ログイン成功時にリダイレクトする URL]?error=invalid_scope&error_description=Invalid%20scope;%20requested:%5Bemail,%20openid%5D&state=ZZZZZZ&scope=openid%20profile

3.3.1.3 **アクセストークン取得リクエスト**

（1）アクセストークン取得リクエスト
Token エンドポイントへ以下リクエストを発行することで、アクセストークンとリフレッシュトークン（アクセストークン更新用）を返却します。

リクエスト URL

メソッド	POST
URL（本番）	https://gbiz-id.go.jp/oauth/token

リクエストヘッダ

ヘッダ名	**設定値**	**備考**
Authorization	Basic [client_id:client_secret を base64 でエンコードした値]	

リクエストコンテント

パラメータ名	**データ型**	**必須**	**備考**
grant_type	String	○	「authorization_code」固定
code	String	○	【code フロー】ユーザ認可リクエストで返却された認可コード
redirect_uri	String	○	RP 毎に予め定義する[ログイン成功時にリダイレクトする URL]

リクエストサンプル

```
grant_type=authorization_code&code=OrC9jAu0qx6p9X17r51fXU&redirect_uri=http%3A%2F%2Fxxxxx%2Ftop
```

リクエストコンテントはボディ部に格納ください。

レスポンス

パラメータ名	**データ型（最大文字数）**	**必須**	**説明**
access_token	String(4096)	○	userinfo リクエスト発行時に必要な token
token_type	String(6)	○	「Bearer」固定
refresh_token	String(4096)		access_token の更新時に必要な token ※【Code フロー】ユーザ認可リクエストの scope で offline_access を指定した場合
expires_in	Integer	○	access_token の有効時間(秒)　※1 時間
scope	String	○	【Code フロー】ユーザ認可リクエストで指定した scope
id_token	String(4096)		ID トークン（JWT（JSON Web Token）フォーマットでエンコード） ・kid：トークンの署名検証に用いる鍵 ID「rsa1」固定 ・alg：トークン署名の際のアルゴリズム「RS256」固定 ・sub：アカウント管理番号(範囲：1～ 2,147,483,647) ・aud：ユーザ認可リクエストで指定した ClientId ・iss：トークン発行者の識別子（環境毎に異なる） [本番] https:¥/¥/gbiz-id.go.jp¥/oauth¥/ [検証] https:¥/¥/stg.gbiz-id.go.jp¥/oauth¥/ ・exp：トークン有効期限（1970/1/1 00:00:00 からの

			経過秒数） ・iat：トークン発行時刻（1970/1/1 00:00:00 からの経過秒数） ・auth_time：ユーザ認証時刻（1970/1/1 00:00:00 からの経過秒数） ・nonce：ユーザ認可リクエストで指定した nonce ・jti：JWT ID（トークン毎にユニークな識別子） ※【code フロー】ユーザ認可リクエストの scope で ""openid""を指定した場合

レスポンスサンプル


```
{
   "access_token":
"eyJraWQiOiJyc2ExIiwiYWxnIjoiUlMyNTYifQ.eyJzdWIiOiIyNDIiLCJhenAiOiJjbGllbnQiLCJpc3MiOiJod
HRwczpcL1wvZ2Jpei1pZC5nby5qcFwvb2F1dGhcLyIsImV4cCI6MTY1MTA1ODI5MywiaWF0IjoxNjU
xMDU0NjkzLCJqdGkiOiJjNTQwYzY1Ny0xZmRkLTQzOWItYTQ3MS1mN2Q5NzU1M2UxMzgifQ==.Ps
nYmVqgNGHPCvIDhQkWPqo4EXxv9j0nX9MpJsyignyx5hhOYG41pU_YAaPnAPrq_vmQDL4PSTTgSc
VIENdwa_kr-
WmceA9aKHJJQ7sZSWBre54gUtl0LHTdxzYWhys_uQ8z50ax2nPFhy12URGVU6I4u_0d291K8JxraD
efF-A",
   "token_type": "Bearer",
   "refresh_token":
"eyJhbGciOiJub25lIn0.eyJleHAiOjE2NTM2NDY2OTMsImp0aSI6ImQ1NTI4NGM5LWFkOGQtNDk5Zi
05ZDlhLTM4NTUwZTU0MWExMSJ9.",
   "expires_in": 3599,
   "scope": "openid offline_access",
   "id_token":
"eyJraWQiOiJyc2ExIiwiYWxnIjoiUlMyNTYifQ.eyJzdWIiOiIyNDIiLCJhdWQiOiJjbGllbnQiLCJraWQiOiJy
c2ExIiwiaXNzIjoiaHR0cHM6XC9cL2diaXotaWQuZ28uanBcL29hdXRoXC8iLCJleHAiOjE2NTEwNTUy
OTMsImlhdCI6MTY1MTA1NDY5MywiYXV0aF90aW1lIjoxNjUxMDU0NjkxLCJub25jZSI6Inh4eHh4eH
h4IiwianRpIjoiYzEzNGQ5NjYtMjY4Yy00NmNkLWFiZjYtYjVhNTcyODI5NzFiIn0=.NLhSCctrAR7kxHV
dDk8vl-0glWXuDmzPS-8t9Ye7XG2UGE7QJBs845of0tXhSzj3TEOKs-
ljaLb8oJlb379rbJJrZIieTCqc1rjQTkQiWZ48BmFtefg3FRf154iJVL-xDe1FF6BCZHGoBGz-
Azt63LqiVooWOyPT2tXUazh6VvE"
}
```


レスポンスコンテント（エラー時）

パラメータ名	データ型	必須	備考
error	String		エラーコード
error_description	String		エラー内容の詳細な説明

エラーコード

値	HTTP ステータスコード	説明
unauthorized	401	ユーザ認証不可
invalid_request	400	パラメータ不正
invalid_grant	400	認可コードが不正、期限切れ、無効 redirect_uri が Authorization リクエスト時と異なっている
unsupported_grant_type	400	サポート外の grant_type

レスポンスサンプル（エラー時）

例）認可コード不正の場合

```
{
   "error": "invalid_grant",
   "error_description": "JpaAuthorizationCodeRepository: no Authorization code found for value
SCmPT6NE7jUIUHyi533tP4"
}
```


3.3.1.4 **属性取得リクエスト**

（1）属性取得リクエスト
UserInfo エンドポイントへ以下リクエストを発行することで、ユーザの属性情報を返却します。

リクエスト URL

メソッド	GET
URL（本番）	https://gbiz-id.go.jp/oauth/userinfo

リクエストヘッダ

ヘッダ名	**設定値**	**備考**
Authorization	Bearer [access_token]	Token エンドポイントで返却される access_token

リクエストコンテント

なし

リクエストサンプル

なし

レスポンス
次ページに示す。
※○は必須項目です。○がない項目は任意項目となります。

scope	パラメータ名	データ型（最大文字数）	プライム	メンバー	エントリー	説明
openid	sub	String	○	○	○	アカウント管理番号 ・内部的な ID を返却 ・整数値(Sub 範囲 1～2,147,483,647)
profile	account_type	String(1)	○	○	○	アカウント種別 1：gBizID エントリー 2：gBizID プライム 3：gBizID メンバー
	corp_type	String(1)	○	○	○	事業形態 1：法人 2：個人事業主
	parent_id	Number		○		gBizID メンバーの場合、親の gBizID プライムのアカウント管理番号を返却する。 整数値(1～2,147,483,647)
	corporate_number	String(13)	○	○	○	【基本情報】法人番号/個人事業主管理番号
	name	String(150)	○	○	○	【基本情報】法人名/屋号
	en_name	String				【基本情報】法人名/屋号（英語表記）
	prefecture_name	String(2)	○	○	○	【基本情報】本店所在地/印鑑登録証明書住所（都道府県） ※JIS X 0401 都道府県コード
	address1	String(64)	○	○	○	【基本情報】本店所在地/印鑑登録証明書住所（市区町村）
	address2	String(300)	○	○	○	【基本情報】本店所在地/印鑑登録証明書住所（番地等）
	rep_last_nm	String(64)	○	○	○	【基本情報】代表者名/個人事業主氏名（姓）
	rep_first_nm	String(64)	○	○	○	【基本情報】代表者名/個人事業主氏名（名）
	rep_last_nm_kana	String(64)	○	○	○	【基本情報】代表者名フリガナ/個人事業主氏名フリガナ（姓）
	rep_first_nm_kana	String(64)	○	○	○	【基本情報】代表者名フリガナ/個人事業主氏名フリガナ（名）
	birthday_ymd	String(8)	○			【基本情報】代表者生年月日/個人事業主生年月日　yyyyMMdd
user	user_last_nm	String(64)	○	○	○	【利用者情報】アカウント利用者氏名（姓）
	user_first_nm	String(64)	○	○	○	【利用者情報】アカウント利用者氏名（名）
	user_last_nm_kana	String(64)	○	○	○	【利用者情報】アカウント利用者氏名フリガナ（姓）
	user_first_nm_kana	String(64)	○	○	○	【利用者情報】アカウント利用者氏名フリガナ（名）

	user_post_code	String(7)	○	○	○	【利用者情報】連絡先郵便番号（ハイフンは含まない）
	user_prefecture_name	String(2)	○	○	○	【利用者情報】連絡先住所（都道府県） ※JIS X 0401 都道府県コード
	user_address1	String(64)	○	○	○	【利用者情報】連絡先住所（市区町村）
	user_address2	String(300)	○	○	○	【利用者情報】連絡先住所（番地等）
	user_address3	String(64)				【利用者情報】連絡先住所（マンション名等）
	user_department	String(64)				【利用者情報】会社部署名/部署名
	user_tel_no_contact	String(11)				【利用者情報】連絡先電話番号（ハイフンは含まない）
	user_birthday_ymd	String(8)	○			【利用者情報】利用者 生年月日 yyyyMMdd
mandate	mandate_info					配列指定
	client_id	String(256)				該当ユーザの内部委任情報として登録されている RP の client_id
email	user_email	String(255)	○	○	○	【利用者情報】アカウント ID（メールアドレス）
email	email	String(255)	○	○	○	【利用者情報】アカウント ID（メールアドレス）

レスポンスサンプル（アカウント種別：gBizID プライムの場合の例）


```
{
  "sub": "1242 ",
  "account_type": "1"
  "corp_type": "2",
  "corporate_number": "27101007182XX",
  "name": "aaa 株式会社",
  "en_name": "13",
  "prefecture_name": "13",
  "address1": "港区",
  "address2": "〇〇〇丁目〇番〇号",
  "rep_last_nm": "山田",
  "rep_first_nm": "太郎",
  "rep_last_nm_kana": "ヤマダ",
  "rep_first_nm_kana": "タロウ",
  "birthday_ymd": "19800101",
  "user_last_nm": "山田",
  "user_first_nm": "太郎",
  "user_last_nm_kana": "ヤマダ",
  "user_first_nm_kana": "タロウ",
  "user_post_code": "0000000",
  "user_prefecture_name": "13",
  "user_address1": "港区",
  "user_address2": "〇〇〇丁目〇番〇号",
  "user_address3": "",
  "user_department": "総務部",
  "user_tel_no_contact": "11111111111",
  "user_birthday_ymd": "19800101",
   "mandate_info":[
   {
   "client_id": "200007app1"
   },
   {
   "client_id": "200017app2"
   }
   ],
   "user_email": " yamada.tarou@example.co.jp "
   "email": " yamada.tarou@example.co.jp "
}
```

レスポンスコンテント（エラー時）

パラメータ名	データ型	必須	備考
error	String		エラーコード
error_description	String		エラー内容の詳細な説明

エラーコード

値	HTTP ステータスコード	説明
invalid_token	401	アクセストークン不正、期限切れ、無効
insufficient_scope	403	scope 不正

レスポンスサンプル（エラー時）

例）アクセストークン不正の場合


```
{
   "error": "invalid_token",
   "error_description": "Invalid access token:
eyJraWQiOiJyca2ExIiwiYWxnIjoiUlMyNTYifQ.eyJzdWIiOiJhZG1pbiIsImF6cCI6ImNsaWVudCIsImlzcyI6Imh0dHA6XC9cL2xvY2FsaG9zdDo4MDgwXC9tZXRpLW9wZW5pZC1jb25uZWN0LXNlcnZlci13ZWJhcHBcLyIsImV4cCI6MTUzNDUxMDk3NywiaWF0IjoxNTM0NTA3Mzc3LCJqdGkiOiJiNGY2YWE3NC1hMDU4LTQ1YjAtYjdlMi0wNGUzYmZiNjE2ZWUifQ.iPqiQ1-
nnOyQG1oQZDANqW1Zp8Ah5yo_PS8jHDAhac5q8Dj3Lof71Hw9UfxxHOBw3RNZw9G8b_a0qlP-
y6xoVkYIxEWhwvw-
8oxRhoHu4BFAFL_QP5PmqRB60bDR2XGjjwCrjOjiobu14vH2H3NQPL9VfAH3yvBYNBcA5unVoQ5JT
K5X5s5yvgwcz7nuzd5D2hOQrwmrCv4SJ9JyPuWYZbPPxe0UDMOw_YN9TBTKPmYMLS-
8cx5hBQ0v5UhhdIP00j5MqacSJvb8JaedW-7OwvG32H_J0b4Vio8omwWxfHOaa8QmSCMBDiJ-
tWhucWgNnFAG7GQO1uIcV-t7C9ZiPw"
}
```

3.3.1.5 **アクセストークン再取得リクエスト**

（1）アクセストークン再取得リクエスト
Token エンドポイントへ以下リクエストを発行することで、アクセストークンを再度返却します。

リクエスト URL

メソッド	POST
URL（本番）	https://gbiz-id.go.jp/oauth/token

リクエストヘッダ

ヘッダ名	設定値	備考
Authorization	Basic [client_id:client_secret を base64 でエンコードした値]	-

リクエストコンテント

パラメータ名	データ型	必須	備考
grant_type	String	○	「refresh_token」固定
refresh_token	String	○	【code フロー】アクセストークン取得リクエストで返却された refresh_token
scope	String		【code フロー】ユーザ認可リクエストで指定した scope の中から取得したい情報を設定 ※指定しない場合、【code フロー】ユーザ認可リクエストで指定した全ての scope が自動設定 ※１つ以上指定する場合、"openid"必須（【code フロー】属性取得リクエストで scope 不正エラー）

リクエストサンプル

```
grant_type=refresh_token&refresh_token=eyJhbGciOiJub25lIn0.eyJleHAiOjE1Njc1MDAwNTIsImp0aSI6ImY0YmRhZjZlLWQ3ZjQtNGIwNC05Mjc2LTJiOGMwNGIzNDYyNiJ9.&scope=openid email profile
```

リクエストコンテントはボディ部に格納ください。

レスポンス

パラメータ名	データ型 （最大文字数）	必須	説明
access_token	String(4096)	○	userinfo リクエスト発行時に必要な token
token_type	String(6)	○	「Bearer」固定
refresh_token	String(4096)	○	access_token の更新時に必要な token
expires_in	Integer	○	access_token の有効時間(秒)
scope	String	○	【code フロー】アクセストークン再取得リクエストで指定した scope
id_token	String(4096)		ID トークン（JWT（JSON Web Token）フォーマットでエンコード） ・kid：トークンの署名検証に用いる鍵 ID「rsa1」固定 ・alg：トークン署名の際のアルゴリズム「RS256」固定 ・sub：アカウント管理番号(範囲：1～ 2,147,483,647) ・aud：ユーザ認可リクエストで指定した ClientId ・iss：トークン発行者の識別子（環境毎に異なる） [本番] https:¥/¥/gbiz-id.go.jp¥/oauth¥/

			[検証] https:¥/¥/stg.gbiz-id.go.jp¥/oauth¥/ ・exp：トークン有効期限（1970/1/1 00:00:00 からの経過秒数） ・iat：トークン発行時刻（1970/1/1 00:00:00 からの経過秒数） ・auth_time：ユーザ認証時刻（1970/1/1 00:00:00 からの経過秒数） ・nonce：ユーザ認可リクエストで指定した nonce ・jti：JWT ID（トークン毎にユニークな識別子） ※【code フロー】ユーザ認可リクエストの scope で ""openid""を指定した場合

レスポンスサンプル


```
{
   "access_token":
"eyJraWQiOiJyc2ExIiwiYWxnIjoiUlMyNTYifQ.eyJzdWIiOiIyNDIiLCJhenAiOiJjbGllbnQiLCJpc3MiOiJod
HRwczpcL1wvZ2Jpei1pZC5nby5qcFwvb2F1dGhcLyIsImV4cCI6MTY1MTA2NDQwMiwiaWF0IjoxNjU
xMDYwODAyLCJqdGkiOiJjODdmYzliMy05OTJjLTRiYjAtOGIzOC05MzFhNGMzMTdkMTQifQ==.brz2D
mhKith6aeOTIg-0vt46sqSmuaGvppO98crWeSGFWgurbmAW4hYPC103n9MhPNab-vkdMu-
1e96OuomrojQdod1s3wcoi64Z64hn2wpWJP3RSNUjUnCvhEx3Lb3hrWViqT0UCURAqL5OWF7dTFI
GXI-Ne5FDzGSjDHjIAIw",
   "token_type": "Bearer",
   "refresh_token":
"eyJhbGciOiJub25lIn0.eyJleHAiOjE2NTM2NTI4MDIsImp0aSI6ImY0YmRhZjZlLWQ3ZjQtNGIwNC05
Mjc2LTJiOGMwNGIzNDYyNiJ9.",
   "expires_in": 3599,
   "scope": "openid",
   "id_token":
"eyJraWQiOiJyc2ExIiwiYWxnIjoiUlMyNTYifQ.eyJzdWIiOiIyNDIiLCJhdWQiOiJjbGllbnQiLCJraWQiOiJy
c2ExIiwiaXNzIjoiaHR0cHM6XC9cL2diaXotaWQuZ28uanBcL29hdXRoXC8iLCJleHAiOjE2NTEwNjE0M
DIsImlhdCI6MTY1MTA2MDgwMiwiYXV0aF90aW1lIjoxNjUxMDU0NjkxLCJub25jZSI6Inh4eHh4eHh4
IiwianRpIjoiYTE0ZGNlMTktOGZlNS00NWE3LWI1MTMtZTAyNjA5YjU2NzY5In0=.FBz2B5DuRFcZGP
uNKpJ4gglV7BRsyJlhOMwwcxeUNqc8W7Ac5T3B9WXk5AIPbn77VvxrFafFsrqv58Sqtil_1FDjjz9Eh2_
WMYNFh5j4d8LzN1eZbqlsCxkujVMM35RFtXVwjQCm6vVHYIEdYMz7DvtwXLE8Htanu6vpV3L1R7Q"
}
```


レスポンスコンテント（エラー時）

パラメータ名	データ型	必須	備考
error	String		エラーコード
error_description	String		エラー内容の詳細な説明

エラーコード

値	HTTP ステータスコード	説明
unauthorized	401	ユーザ認証不可
invalid_token	401	リフレッシュトークンが不正、期限切れ、無効
invalid_scope	401	サポート外のスコープ

invalid_request	400	パラメータ不正
unsupported_grant_type	400	サポート外の grant_type

レスポンスサンプル（エラー時）

例）パラメータ不正の場合

```
{
   "error": "invalid_token",
   "error_description": "Invalid refresh token:
eyJhbGciOiJub25lIn0.eyJleHAiOjE1Njc1MDExNTQsImp0aSI6IjI3MWM3YzdjLWJmYWItNDA0ZC1iM
GNhLTkzYTYxOTBlODYyZSJ9."
}
```


3.3.1.6 **各リクエスト検証方法**

（1）state 検証

state の検証は以下のように実施します。

No	検証方法
1	ユーザ認可のレスポンスで取得した state の値が、リクエストで送信した値と同じであること。

（2）ID トークン検証/nonce 検証

id_token は、JSON Web Token (JWT)形式となっており、「.」(ピリオド)区切りで、ヘッダ部、ペイロード部、署名部に分かれています。nonce はペイロード部に含まれています。
ヘッダ部、ペイロード部は Base64 でエンコードされており、以下のような値が設定されています。
※ id_token/nonce の検証で使用する主要なものを記載しています。実際には他の値も含まれています。

分類	パラメータ名	説明
ヘッダ部	alg	id_token の署名に使用されるハッシュアルゴリズム。
ペイロード部	iss	id_token の発行者。 ＧビズＩＤの URL「https://認証基盤のドメイン/oauth/」となる。
	sub	認証されたユーザを示す識別子。 ＧビズＩＤのアカウント管理番号が設定される。
	aud	id_token の受け取り者。 RP の client_id が設定される。
	exp	id_token の有効期限。 UNIX タイム（UTC の 1970/1/1 00:00:00 からの経過秒数）となる。
	iat	id_token の発行時刻。 UNIX タイム（UTC の 1970/1/1 00:00:00 からの経過秒数）となる。
	auth_time	ユーザ認証時刻。 UNIX タイム（UTC の 1970/1/1 00:00:00 からの経過秒数）となる。
	nonce	クライアントのセッションと ID Token を紐付ける文字列。 リプライアタックの防止に利用。 認証リクエストで指定した値が設定される。

ID トークンの検証は以下のように実施します。再認証要求を行った場合の ID トークンの検証では、下記 No.1～5 に加え、No.6～7 を検証する。

No	検証方法
1	iss(id_token の発行者)の値が「https://認証基盤のドメイン/oauth/」と一致することを確認する。
2	aud(id_token の受け取り者)の値が認証リクエストで送信した client_id と一致することを確認する。
3	id_token の値を alg のハッシュアルゴリズムで検証する。 ※検証には OpenID Connect ライブラリ等を使用する。 ※公開鍵は下記の jwks_uri パラメータの値で示される。 https://認証基盤のドメイン/oauth/.well-known/openid-configuration
4	exp(id_token の有効期限)が現在時刻より後であることを確認する。
5	iat(id_token の発行時刻)が現在時刻より前で、古すぎないことを確認する。 ※どのくらい古い id_token を許容するかは、RP 側の判断とする。
6	再認証要求を行った場合には（未認証ユーザに対する再認証要求の場合を除く）、再認証後に取得したユーザの ID トークンに含まれる iss 値と sub 値が再認証前の iss 値と sub 値に一致していることを確認する。
7	再認証要求を行った場合には、auth_time の値が妥当な範囲で現在時刻に近いことを確認する。

nonce の検証は以下のように実施します。

No	検証方法
1	nonce の値が認証リクエストで指定したものと一致することを確認する。

3.3.2. 委任情報取得 API について

（1）委任情報取得リクエスト

指定されたアカウントの受任情報を取得します。受任者のアカウント管理番号を指定すると、レスポンス情報として受任者に対し委任を行った委任者の情報（委任元情報）が取得可能です。なお、指定アカウント（アカウント管理番号）が gBizID メンバーの場合、親の gBizID プライムの受任情報を取得します。

リクエスト URL

メソッド	POST
API パス	[コンテキストパス]/delegation ※コンテキストパス=/api

リクエストコンテント（正常時）

パラメータ名	データ型 （最大文字数）	必須	備考
client_key	String(255)	○	半角英数字 ※RP 利用申請にて委任有りとした際払い出される client_key
client_token	String(255)	○	半角英数字 ※クライアント識別子との組合わせで認証処理を行う ※RP 利用申請にて委任有りとした際払い出される client_token
meti_id	String	○	アカウント管理番号 半角数字 ※UserInfo で取得できるアカウント管理番号（sub）を入力

リクエストサンプル（正常時）

```
{
“client_key”:”aaaaa”,
“client_token”:”76D69F8D708746AA43A65E8B29C5D9A1”,
“meti_id”:”12345678”
}
```

リクエストコンテントはボディ部に格納ください。

レスポンス

HTTP ステータス	意味	説明
200	処理成功	処理成功
400	リクエストパラメータエラー	属性チェックエラーの場合
401	認証エラー	client_key と client_token での認証がエラーとなった場合
500	API 内システムエラー	予期しないシステムエラーが発生した場合

レスポンスコンテント
※○は必須項目です。○がない項目は任意項目となります。

No	項目名	パラメータ名	データ型（最大文字数）	プライム	メンバー	エントリー	備考
1	委任元情報	delegation_info		○	○		配列指定
2	委任申請番号	delegation_no	String(15)	○	○		半角数字＆半角ハイフン 0-yyMMdd-0000-0 形式
3	対象サービス	system_cd	String(5)	○	○		半角英数字
4	委任開始日	delegation_start	String(8)	○	○		半角数字 yyyyMMdd
5	委任終了日	delegation_end	String(8)				半角数字 yyyyMMdd
6	アカウント管理番号	meti_id	Number	○	○		半角英数字
7	事業形態	business_type	String(1)	○	○		半角英数字 1：法人 2：個人事業主
8	法人番号／個人事業主管理番号	corp_no	String(13)	○	○		半角英数字
9	法人名／屋号	firm_nm	String(150)	○	○		全角
10	法人名／屋号　英語表記	firm_nm_en	String				半角英数字
11	本店所在地／印鑑登録証明書住所　都道府県	address_pref	String(5)	○	○		全角
12	本店所在地／印鑑登録証明書住所　市区町村	address_city	String(64)	○	○		全角
13	本店所在地／印鑑登録証明書住所　番地等	address_number	String(300)	○	○		全角
14	代表者名／個人事業主氏名（姓）	last_nm	String(64)	○	○		全角
15	代表者名／個人事業主氏名（名）	first_nm	String(64)	○	○		全角
16	代表者名フリガナ／個人事業主氏名フリガナ（姓）	last_nm_kana	String(64)	○	○		全角カタカナ
17	代表者名フリガナ／個人事業主氏名フリガナ（名）	first_nm_kana	String(64)	○	○		全角カタカナ
18	代表者生年月日／個人事業主生年月日	birthday	String(8)	○			半角数字 yyyyMMdd
19	アカウント利用者氏名（姓）	user_last_nm	String(64)	○	○		全角
20	アカウント利用者氏名（名）	user_first_nm	String(64)	○	○		全角
21	アカウント利用者氏名フリガナ（姓）	user_last_nm_kana	String(64)	○	○		全角カタカナ
22	アカウント利用者氏名フリガナ（名）	user_first_nm_kana	String(64)	○	○		全角カタカナ
23	連絡先郵便番号	user_post_cd	String(7)	○	○		半角数字

24	連絡先住所　都道府県	user_address_pref	String(5)	○	○		全角
25	連絡先住所　市区町村	user_address_city	String(64)	○	○		全角
26	連絡先住所　番地等	user_address_number	String(300)	○	○		全角
27	連絡先住所　マンション名等	user_address_bldg	String(64)				全角
28	会社部署名／部署名	user_department	String(64)				全角
29	連絡先電話番号	user_tel_no_contact	String(11)				半角数字
30	アカウントID(メールアドレス)	user_email	String(255)	○	○		メール形式

レスポンスサンプル（正常時）


```
{
 "delegation_info": [
  {
   "delegation_no": "1092730197",
   "system_cd": "AAAAA",
   "delegation_start": "20181001",
   "delegation_end": "20190228",
   "meti_id": "27019707",
   "business_type": "1",
   "corp_no": "2710100718279",
   "firm_nm": "あああ",
   "firm_nm_en": "aaa",
   "address_pref": "東京都",
   "address_city": "○○区",
   "address_number": "××１２－３－４",
   "last_nm": "○○　○○",
   "first_nm": "○○　○○",
   "last_nm_kana": "○○　○○",
   "first_nm_kana": "○○　○○",
   "birthday": "19700101",
   "user_last_nm": "○○",
   "user_first_nm": "○○",
   "user_last_nm_kana": "○○",
   "user_first_nm_kana": "○○",
   "user_post_cd": "1234567",
   "user_address_pref": "東京都",
   "user_address_city": "○○区",
   "user_address_number": "××１２－３－４",
   "user_address_bldg": "○○ビル３F",
   "user_department": "○○部",
   "user_tel_no_contact": "01234567890",
   "user_email": "aaa@bbb.cc"
  },
```

```
  {
   "delegation_no": "1092730197",
   "system_cd": "AAAAA",
   "delegation_start": "20181001",
   "delegation_end": "20190228",
   "meti_id": "27019707",
   "business_type": "1",
   "corp_no": "2710100718279",
   "firm_nm": "あああ",
   "firm_nm_en": "aaa",
   "address_pref": "東京都",
   "address_city": "○○区",
   "address_number": "××１２－３－４",
   "last_nm": "〇〇　〇〇",
   "first_nm": "〇〇　〇〇",
   "last_nm_kana": "〇〇　〇〇",
   "first_nm_kana": "〇〇　〇〇",
   "birthday": "19700101",
   "user_last_nm": "〇〇",
   "user_first_nm": "〇〇",
   "user_last_nm_kana": "〇〇",
   "user_first_nm_kana": "〇〇",
   "user_post_cd": "1234567",
   "user_address_pref": "東京都",
   "user_address_city": "○○区",
   "user_address_number": "××１２－３－４",
   "user_address_bldg": "○○ビル３F",
   "user_department": "○○部",
   "user_tel_no_contact": "01234567890",
   "user_email": "aaa@bbb.cc"
  }
 ]
}
```

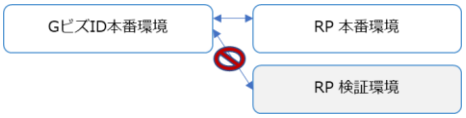
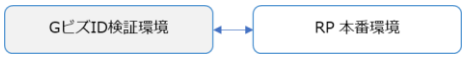

レスポンスサンプル（検索結果 0 件）


```
{
}
```

4. リリースに向けた作業について

4.1. 各環境概要

ＧビズＩＤでは以下環境を用意します。

項目	ＧビズＩＤサービス本番環境	ＧビズＩＤサービス検証環境
利用目途	ＧビズＩＤサービスが稼働する環境。 ＧビズＩＤサービス本番環境は、RP本番環境と接続することを前提としております。RPの検証環境とは接続できませんのでご注意ください。 ＜基本の考え方＞  RP本番環境の設定のスケジュールは、RPのサービスリリース日（エンドユーザへの公開日）の原則１週間前となります。ＧビズＩＤ本番環境は稼働中のシステムであるため、本番環境以外で稼働前のＲＰとの接続は許可しておりません。 ※なお、ネットワーク疎通のためＧビズＩＤの本番環境と早く接続されたいというご要望をいただきますが、ＧビズＩＤ検証環境とシステム構成、ネットワークが同一なので、検証環境でテストを行うようお願いいたします。	RP向けに提供する検証環境。 ＧビズＩＤサービス検証環境は、RP検証環境と接続することを前提としております。 なお、本検証環境は、本番環境でのシステム連携前の接続確認用としての役割だけでなく、ＧビズＩＤサービスの機能追加・変更時における先行リリースの実施に伴い、RP側のシステムに影響がないかを確認いただく用途にもご利用いただきます。RP側でも検証環境をご準備いただき、本検証環境と接続してご確認いただきますよう、お願いいたします。 ＜基本の考え方＞  ＜イレギュラー対応： 接続したい場合は要相談＞ RP検証環境が準備できず、リリース直前まで本番環境しか準備ができない場合は、RP本番環境リリース前までであれば、RP本番環境とＧビズID検証環境とのシステム連携による検証は可能といたします。ただし原則的には検証環境をご準備ください。 
URLのドメイン部分※	gbiz-id.go.jp	stg.gbiz-id.go.jp
RP登録方法	RP設定申込書をＧビズＩＤ RPサポート窓口へ提出する。	RP設定申込書をＧビズＩＤ RPサポート窓口へ提出する。
制限事項	基本的に試験実施は不可。認証連携に関する疎通確認レベルの動作確認のみは可能ですが、その他試験、特に性能負荷試験や異常系試験などの、本番環境運用に影響を及ぼす可能性がある作業は禁止いたします。	性能負荷試験や異常系試験など、稼働中の本番環境での運用に影響を及ぼす可能性がある作業は禁止いたします。

Web サイトの URL はそれぞれ以下の通り
ログイン：https://（URL のドメイン部分）/oauth/authorize
エントリー新規登録：https://（URL のドメイン部分）/app/baa/reg/mailaddr/input
プライム新規作成：https:// （URL のドメイン部分）/app/rep/reg/apply/show

4.2. 審査および設定申込に関する対応フローと注意事項

注意！本ガイドラインは行政サービス担当者向けのガイドラインであり、
ＧビズＩＤ作成に関するマニュアルではございません。
法人・個人事業主の方がＧビズＩＤを作成されたい場合は、
ＧビズＩＤ｜ご利用ガイド (gbiz-id.go.jp)をご覧ください。

G ビズＩＤと行政サービス連携に向けた審査および接続設定の流れを示します。
以下の流れに沿って、RP 側での調整および動作確認を実施してください。

0 【事前準備】
ＧビズＩＤ連携に関するドキュメントをＧビズＩＤサイトよりダウンロードし、確認する。

■掲載場所：
https://gbiz-id.go.jp/top/system_guide/system_guide.html
■連携システム向け資料
「ＧビズＩＤサービス連携利用規約」「ＧビズＩＤサービス連携利用申請書」「ＧビズＩＤ接続システム向けガイドライン（本書）」
■ＧビズＩＤ利用者資料
「利用規約」「プライバシーポリシー」

1 【利用申請】
RP設定に関する利用申請を実施するため、⓪で資料を確認した上、
「ＧビズＩＤサービス連携利用申請書」をRPサポートデスク宛てに提出する。

申請における注意点
・サービス連携申請を行う際は、申請を行う組織・団体に所属される方にて申請をするようにしてください。
所属されていない方（例：組織・団体から委託された開発ベンダ様、NPO法人等）からの代理申請については
申請受理ができませんのでご注意下さい。
・記載内容に不備がある場合等、審査を受理できない場合がございます。

2 【設定申込】
数営業日にて審査完了メール受け取り・設定に必要となる情報提出のため
RP設定申込書を提出する。
（RP設定申込書は、②の利用申請審査完了時にRPサポートデスクより送付。）

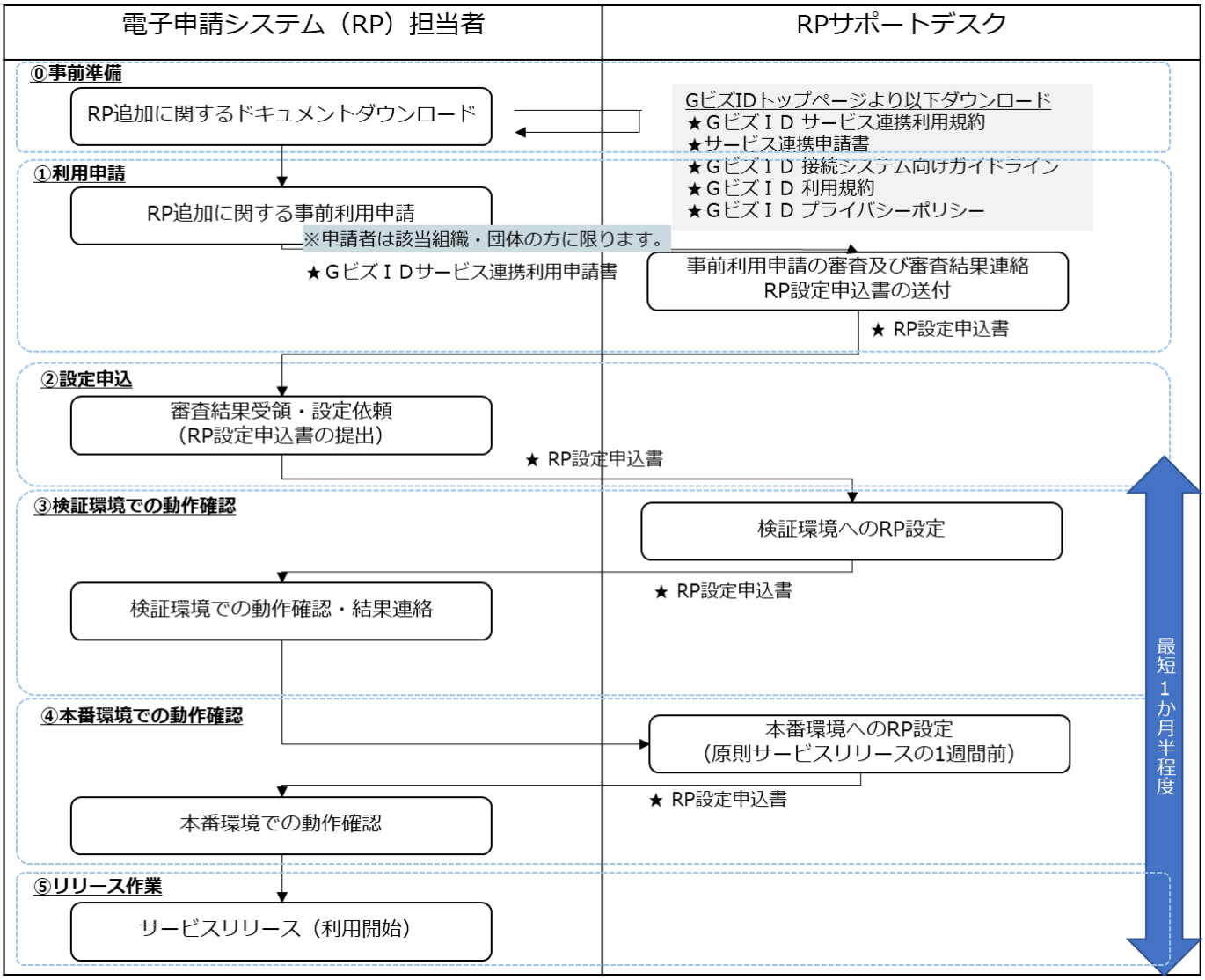
3 検証環境設定での動作確認を実施する。
（検証環境設定日や設定情報はRPサポートデスクより送付。）

4 本番環境設定での動作確認を実施する。
（本番環境設定日や設定情報は事前にRPサポートデスクより送付。）

5 電子申請システム（RP）側にてリリース作業を実施する。

RP サポートデスクとの各手順（業務フロー）は、次ページに記載しております。

＜各手順に関する業務フロー＞



4.2.1. ⓪事前準備について

以下の Web サイトから各ドキュメントファイルをダウンロードいただき、各ドキュメントの内容をご確認ください。
https://gbiz-id.go.jp/top/system_guide/system_guide.html

必ず各ドキュメントをご一読の上、お申込みのフローに進んでください。
各ドキュメントの概要について以下に示します。

項目	ドキュメント名	概要
行政サービス向けドキュメント一式	**GビズＩDサービス連携利用規約**	GビズＩDとシステム連携する行政サービスに、GビズＩDで認証を行う際に必要な事項および遵守していただく事項などが記載された資料。
	GビズＩD接続システム向けガイドライン	本書のこと。接続に向けてサービス仕様や手順が記載された資料。
	GビズＩDサービス連携利用申請書	GビズＩDに接続いただくための利用申請書。こちらの申請書に基づき RP サポートデスクにて申請の審査を行います。
利用者向けドキュメント一式	**利用規約**	利用者向けにGビズＩDの利用に関する条件等を定めた利用規約。
	プライバシーポリシー	利用者向けにGビズＩDのプライバシーポリシーを定めたもの。

4.2.2. ①利用申請について

GビズＩDの利用にあたり、デジタル庁にて利用内容の確認および審査を行わせていただきます。

GビズＩDサービス連携利用申請書をご入力の上、以下のメールアドレスまでご連絡をお願いいたします。
GビズＩD RP サポート窓口： gbizid_rp_support@ml.ntt.com

※上記メールアドレスには、デジタル庁および委託業者である NTT コミュニケーションズが含まれております。

<注意点>

・サービス連携申請を行う際は、申請を行う組織・団体に所属される方から申請するようにしてください。所属されていない方（例：組織・団体から委託された開発ベンダ様、NPO 法人等）からの代理申請は受理できませんのでご注意下さい。

・GビズＩD サービス連携利用規約第２条定義第１項に規定する申請を担当する部局・団体等以外のお申込みは受理できません。事前に利用規約をご確認の上、お申込みください。
また、申請書上にはGビズＩD サービス連携利用規約第２条定義第１項に規定する申請を担当する部局・団体に関し団体分類を選択いただきます。このうち「⑤二つ以上の①から④に掲げる団体が運営する団体」を選択された方につきましては、利用申請書上に所属する団体名すべてを記載いただきます。記載内容により個別にヒアリングをさせていただく場合や、申告書等の別の書式の提出を申し出る場合がございますので、あらかじめご了承ください。「⑤二つ以上の①から④に掲げる団体が運営する団体」の方につきましては、お早めに申請を行うようお願いいたします。

・審査が完了しましたら、RP サポートデスクより審査完了のご連絡と以下 2 点の関連書類を送付させていただきます。

項目	ドキュメント名	概要
RP 設定申込	**RP 設定申込書**	ＧビズＩＤの連携設定のために、必要な情報をご記載いただく設定申込書
	ＧビズＩＤサービス　RP 設定申込に伴う詳細および依頼事項	設定申込提出時の注意点や、検証環境へのアクセス手段を記載した資料

4.2.3. ②接続申込について

RP 設定申込書に必要事項をご記載いただき、以下のメールアドレスまでご連絡をお願いいたします。
ＧビズＩＤ RP サポート窓口： gbizid_rp_support@ml.ntt.com

RP 設定申込書にご記載いただく項目については、4.2. RP 設定申込書の欄をご参照ください。また記載においての重要事項・注意点について以下に記載しますので、必ずご確認下さい。

【提出期限について（重要)】
ＧビズＩＤの RP 設定申込書の提出期限：

全ての情報をご記載いただいた上で遅くとも、サービスリリース日（エンドユーザへの公開日）の **6 週間前**までに RP サポート窓口まで提出してください。

※6 週間前の該当日が祝日/土日の場合は、その前日までに提出してください。

なお、RP 設定申込書に不備があった場合や受領する時期や混雑状況により、設定が希望日より遅れる場合、またスケジュールを調整させていただく場合などがございますので、その際はご了承ください。

サービスリリース日に間に合わせるため **6 週間**より以前に、極力早めにご提出いただけますようお願いしております。何卒ご理解ご協力の程よろしくお願いいたします。

RP 設定申込書を提出後に、記載情報が変更になる場合は、再度設定日を調整させていただきます。

例：6 月 30 日 がサービスリリース日の場合の各設定日イメージ

・RP 設定申込書の提出は、遅くともサービスリリース日の 6 週間前（5 月 19 日頃）に実施いただくようお願いさせていただいております。理由としましては検証環境設定後に接続がうまくいかないケースもあるので、検証環境設定後のエラー解析や解消に関連し、RP 設定申込書本番環境設定内容確定まで、2 週間程度のバッファを持っていただくためです。
・検証環境の設定は、RP 設定申込書受領後、2 週間前後の日程にて設定日を調整いたします。

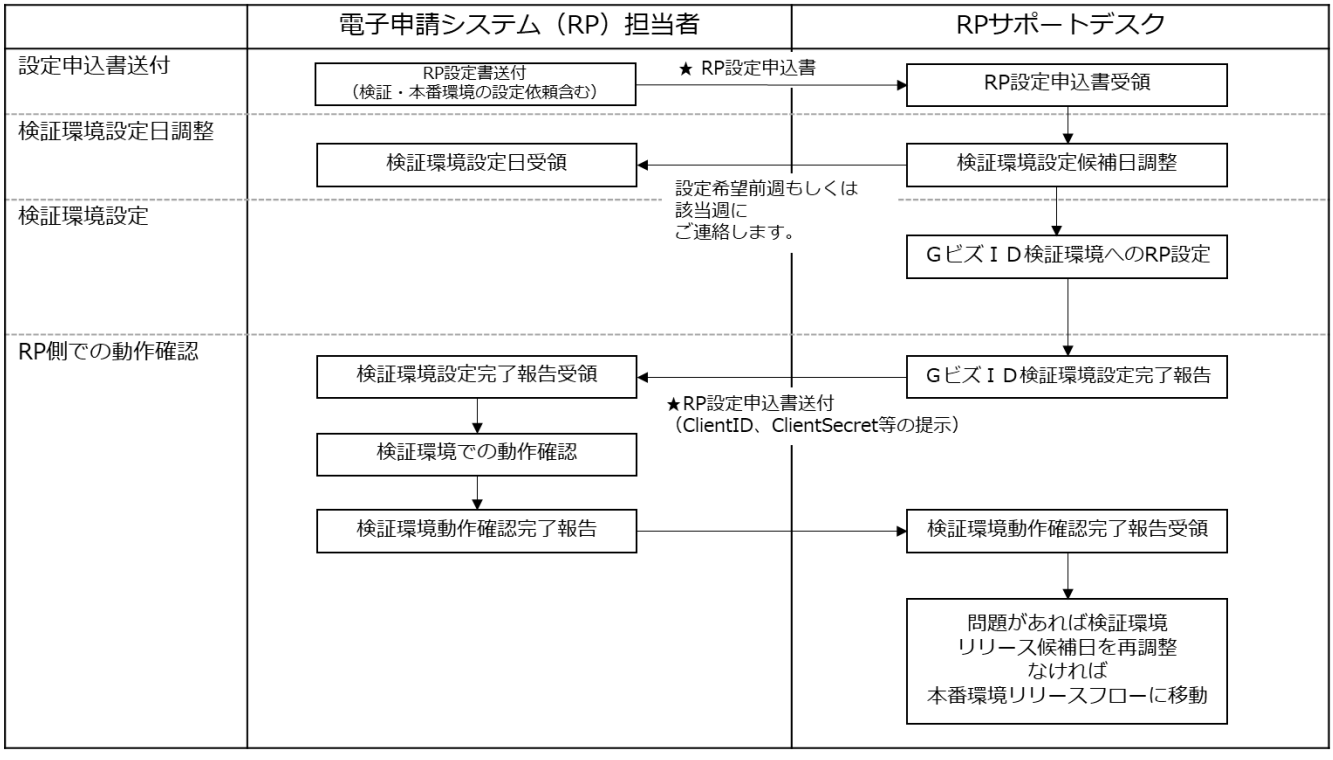
【その他：記載における注意点】

項目	注意点	例
RP 名称に関する依頼事項	利用申請書や RP 設定申込書、メールに記載されるサービス名称は統一されたものをご連絡ください。	―
	本番環境と検証環境のサービス名称については、区別できるよう記載ください。	本番：ABC システム 検証：ABC システム（検証）
	冒頭に識別できる言葉を入れるため、以下を参考にご命名ください。	悪い例：△△県電子申請システム（○○市） 良い例：○○市電子申請システム、 △△県○○市電子申請システム
	検証環境が複数ある場合は、各々の名称が区別できるように命名してください。	ABC システム（検証①） ABC システム（検証②）
RP 設定申込書のファイル命名規則	設定申込書のファイル名は、行政サービス名（RP 名）を記載するようにしてください。右の記載例の命名規則を参考にご記載ください。	RP 設定申込書_verXX_★RP 名★_日付_○〇環境①新規 or 変更 or 削除　等
RP 設定申込書の版数（バージョン）	設定変更時には、最新の RP 設定申込書（リダイレクト URL などが記載された資料）に記載してください。RP 設定申込書の版数が上がった場合は、最新の資料に転記してください。	―

4.2.4. ③検証環境での動作確認について

RP 設定申込書受領後に、RP サポートデスク側にて、検証環境設定日の調整を行います。設定希望日の前週もしくは当週に RP サポートデスクより検証環境設定日のご連絡をいたします。G ビズ ID 側で G ビズ ID 検証環境への設定が完了しましたら、RP サポートデスク側より設定完了の旨、ご連絡をいたします。設定完了時には、RP 側の設定に必要となる設定情報（ClientID と ClientSecret 等）をお送りします。

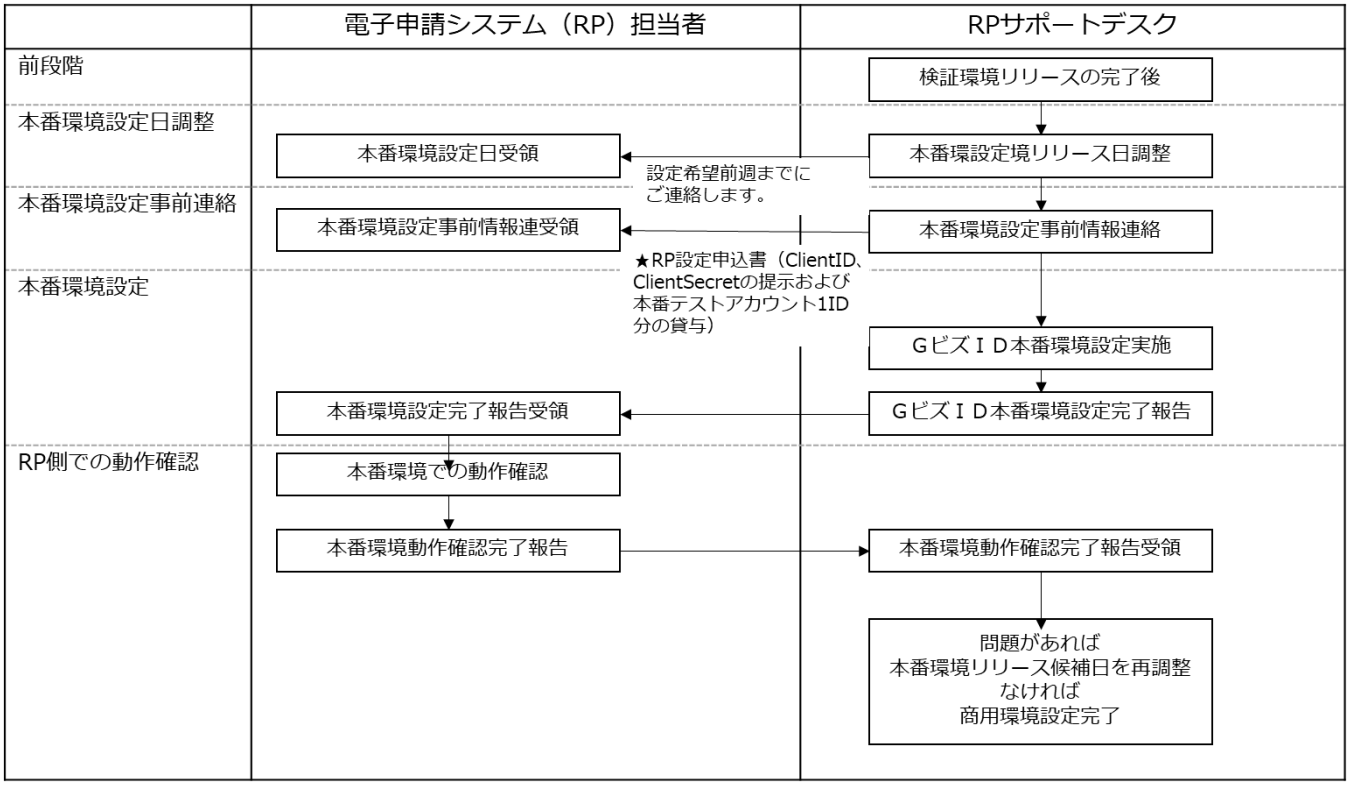
＜③検証環境設定に関する業務フロー＞



4.2.5. ③本番環境での動作確認について

検証環境設定完了後、RP サポートデスク側にて、本番環境設定日の調整を行います。本番環境の設定日は、行政サービスのリリース（エンドユーザへの公開日）の 1 週間前とさせていただきます。RP サポートデスクから設定前週までに、設定日についてご連絡をいたします。
RP サポートデスクより、事前に設定情報（ClientID と ClientSecret 等）をお伝えいたします。
また設定日当日の作業完了後に、設定完了の旨のご連絡をさせていただきます。

＜④本番環境設定に関する業務フロー＞



4.2.6. ⑥リリース作業

ＧビズＩＤ本番環境の設定が完了し、さらに RP 側で動作確認等が完了しましたら、利用者向けにサービスリリースに向け準備していただきます。このフェーズにおける作業は、ＧビズＩＤ側は関与いたしません。

4.2.7. リリース後の設定変更・設定追加依頼要望について

リリース後に設定内容を変更されたい場合は、RP 設定申込書に必要事項をご記載いただけましたら、変更の対応を行います。RP 設定申込書上で変更したい点を明示的にご記載いただき（赤字など変更点を明確にしていただき）、以下のメールアドレスまでご連絡をお願いいたします。

ＧビズＩＤ RP サポート窓口： gbizid_rp_support@ml.ntt.com

【提出期限について（重要）】
ＧビズＩＤの RP 設定申込書の提出期限：
検証環境及び本番環境にかかわらず全ての情報をご記載いただいた上で遅くとも、
変更希望日（本番環境の場合はエンドユーザへの公開日）の **3 週間前**までに、RP サポート窓口まで提出してください。

※3 週間前の該当日が祝日/土日の場合は、その前日までに提出してください。

なお、ＲＰ設定申込書の「Ｇビズ ＩＤ　TOP ページコンテンツ（利用可能なサービス一覧）への登録内容」に記載いただく内容については、Ｇビズ ＩＤの本番環境及び検証環境設定とは別タイミングとなり月１回（第一営業日）となります。
原則、新規申込時は RP 様のサービス開始日（サービスリリース日）の翌月の第一営業日に掲載されます（サービスリリース日が第一営業日の場合は同日に掲載します。）が、サービス開始時には掲載を希望せず、後日掲載されたい場合は、毎月 10 日までに申請いただくと翌第一営業日に掲載いたしますので、事前にご相談ください。また掲載後、サービスＵＲＬや連絡先等内容に変更が発生した場合もご連絡ください。

4.2.8. その他（テストアカウントの作成手順）

Ｇビズ ＩＤでは検証環境・本番環境用のテストアカウントをご用意しております。
gBizID プライムの作成には、書類郵送やマイナンバーカード登録などが必要となりますが、テストアカウントはそれらの対応不要でご利用できます。
アカウント種別や検証環境、本番環境によって作成手順等は異なります。詳細は以下にてご確認ください。

項目	Ｇビズ ＩＤサービス本番環境 テストアカウント	Ｇビズ ＩＤサービス検証環境 テストアカウント
gBizID プライム	RP 設定申込書上にて gBizID 本番環境テストアカウント 1 アカウントを申請いただいた後に、RP サポートデスクにて作成、テストアカウントを貸与いたします。 テストアカウントは RP ごとに 1 アカウント限定となります。 また、本テストアカウントでは、ご自身が担当されている行政サービスのみログインを許可します。その他行政サービスへはログインしないようお願いいたします。	行政サービス担当者がＧビズ ＩＤ検証環境にて、gBizID 検証環境テストアカウントを作成いただき、RP サポートデスク宛てに承認依頼のメールを送信してください。その後 RP サポートデスクでの承認によって、テストアカウントのご利用が可能となります。 Ｇビズ ＩＤ検証環境については、RP 利用申請審査完了後に、アクセス先などの詳細をご連絡いたします。
gBizID メンバー	原則的に作成不可 gBizID プライムテストアカウントに紐づくメンバー作成は不可となります。	行政サービス担当者にて、gBizID 検証環境テストアカウント作成が可能です。上記 gBizID プライム作成後に、gBizID プライムからのアカウント作成が可能となります。 ただし、作成した gBizID メンバーにアドミン権限を付与することは検証環境ではできません。 Ｇビズ ＩＤ検証環境については、RP 利用申請審査完了後に、アクセス先など詳細をご連絡いたします。アカウントの作成方法は、gBizID メンバー作成マニュアルを参照：https://gbiz-id.go.jp/top/manual/pdf/QuickManual_Member.pdf
gBizID エントリー	原則的に作成不可	行政サービス担当者にて検証環境で作成が可能です。 Ｇビズ ＩＤ検証環境にて、ご自由に作成いただけます。

		ＧビズＩＤ検証環境については、RP 利用申請審査完了後にアクセス先などの詳細をご連絡いたします。アカウントの作成方法は、gBizID エントリー作成マニュアルを参照： https://gbiz-id.go.jp/top/manual/pdf/QuickManual_Entry.pdf

なお、テスト用にＧビズＩＤサイトから正規のルート（書類郵送申請もしくはオンライン申請）にて、gBizID プライムや gBizID メンバー、gBizID エントリー作成することは禁止しております。

各環境における gBizID プライムテストアカウントの作成手順については、次のスライドに示します。

＜GビズＩＤサービス本番環境： gBizID プライムテストアカウント作成手順＞
GビズＩＤ本番環境：gBizID プライムの作成手順について、以下に示します。

手順	概要	詳細
1	RP 設定申込書提出の際に、RP 設定申込書【7. 本番環境疎通確認用テストアカウントの有無について】に必要事項を記載して提出する。	RP 設定申込書上に、gBizID プライムテストアカウントの有無およびメールアドレス/SMS 受信番号を記載してください。 【注意点】 ・テストアカウントは 1 アカウントのみとなります。 ・個人事業主種別での作成はできません。
―	RP サポート窓口にて、本番環境用の gBizID プライムテストアカウントを作成いたします。 GビズＩＤ本番環境設定前日に、ログイン ID/Password などの設定情報をお伝えいたします。	
2	GビズＩＤ本番環境設定日の前日に、RP サポート窓口より、gBizID プライムテストアカウントのログイン ID/Password などの設定情報を受領します。	gBizID プライムテストアカウントの ID およびパスワードを用いてGビズＩＤ本番環境にアクセスして、疎通確認などのテストを実施してください。 【注意点】 ・gBizID メンバーは、作成いただくことができません。

＜GビズＩＤサービス検証環境： gBizID プライムテストアカウントの作成手順＞
GビズＩＤ検証環境： gBizID プライムテストアカウントの作成手順を以下に示します。

手順	概要	詳細
1	GビズＩＤ検証環境にアクセス	GビズＩＤ検証証環境にアクセスしてください。 GビズＩＤ検証環境については、RP 利用申請審査完了のご連絡時に、アクセス先の URL などの詳細をご連絡いたします。
2	GビズＩＤ検証環境上にて gBizID プライムアカウントを作成	ご自身にてGビズＩＤ検証環境上にて書類郵送申請より gBizID プライムの申請を登録してください。 ・法人アカウントを作成する場合は、 自社の法人番号を利用してください。 （申請画面にて「その法人番号ですでに登録されています」というメッセージについては無視してください） ・個人事業主のアカウントについては、特に制限事項はございません。 ※なお、本環境は検証環境であるため、アカウント作成後の印鑑（登録）証明書、申請書等、郵送等は不要です。 特にアカウント数に制限はございませんが、必要なアカウント数のみを申請してください。
3	gBizID プライムのアカウント承認依頼を RP サポート窓口にメールでご連絡ください。	gbizid_rp_support@ml.ntt.com 宛てに、承認依頼（メールアドレスと申請 ID）をメールでご連絡ください。 ・承認依頼時には必ず、行政サービス名（RP 名）と氏名を記載してください。文面サンプルを本項目の下部に記載します。 ・アカウントの申請が複数件ある場合は、申請 ID ごとの依頼ではなく、まとめて（複数の申請 ID を列挙し）申請依頼をくださいますようお願いいたします。
―	RP サポート窓口にて、アカウント承認を行います。承認後には、アカウント承認の旨のメールが送付されます。	
4	メールに基づき、ID 登録を完了	送付されたメールに従い、gBizID アカウント登録を完了させてください。その後 gBizID メンバーの作成も可能になります。 検証環境では、多要素認証に関し、SMS 認証により認証を実

		施してください。（本番環境においては、2024 年以降ログイン時の SMS を用いたワンタイムパスワード認証は廃止する予定ですが、現状検証環境ではその予定はございません。廃止の方針などが決まった場合はご連絡させていただきます。）

（サンプル）ＧビズＩＤ検証環境　gBizID プライムテストアカウント承認依頼メール
メールアドレスおよび申請 ID に加えて、ご所属の情報および RP 名を記載するようお願いいたします。

Title:【●●市電子申請システム】　検証環境の gBizID プライム承認依頼について
宛先：gbizid_rp_support@ml.ntt.com

RP サポート窓口宛て

●●市の△です。
表記の件につきまして、検証環境での gBizID プライムアカウントの承認を依頼いたします。

メールアドレス：XXXX
申請 ID　　:TEST1-2308xx-0002-0
RP 名　　：●●市電子申請システム

以上、よろしくお願いいたします。

※申請 ID に関しまして、検証環境では画面上に表示される申請 ID は冒頭に”TEST”が付きませんが、PDF 上に表示される申請 ID は冒頭に”TEST”と付いた ID となります。いずれの ID でも構いません。

4.3. RP 設定申込書

以下の項目を記載してください。すべての内容が揃わない場合は、申請を受理できません。

No	項目	内容
1	基本情報（連携サービス概要）	サービスの概要およびＧビズＩＤのリポジトリに登録する情報
2	OpenID Connect 連携に関する情報	OpenID Connect 連携設定時に必要な情報
3	委任申請に関する情報	委任設定に必要となる情報 ※委任者からの申請を受け付けるシステムの場合
4	多要素認証ポリシーに関する情報	1 要素認証もしくは 2 要素認証サイトもしくは 1 要素 2 要素混在サイトかを選択
5	TOP ページコンテンツ（利用可能なサービス一覧）への登録内容	TOP ページ及びシステム内部の「利用可能なサービス一覧」に掲載する情報
6	システム内の「利用可能なサービス一覧への表示・非表示」について	システム内の「利用可能なサービス一覧」へのサービス名称の表示可否を選択
7	本番環境疎通確認用テストアカウントの有無について	本番疎通確認用にテストアカウントが必要かの有無の旨をご連絡を下さい。
8	ご連絡先情報	ＧビズＩＤ運営者・開発者向け連絡事項を受け取るための担当者のご連絡先情報について記載ください。

（1）連携サービスの概要

項目	データ型	必須/任意	備考	サンプル	備考
管理番号	数字	必須	RP 管理用の通し番号	0001	ＧビズＩＤ側で一意に決定 （設定通知書にて通知）
RP 名（サービス名）	文字列	必須	RP の名称 ※全角	サンプルサービス	本番と検証用について、それぞれ記載ください。
サービス開始予定日	文字列	必須	サービスの提供開始予定日（エンドユーザへのサービス公開日） なお、既存サービスの場合は、設定変更リリース予定日。携開始	2021/04/01	サービス開始予定日が確定の上で記載をお願いいたします。サービス開始予定日がまだ未確定の場合はご相談ください。原則的に、こちらに記載いただくサービス開始予定日の 1 週間前を本番環境の設定日として調整させていただきます。
申込者名	文字列	必須	サービス申込書名	デジタル庁	
関連事業者	文字列	必須	開発ベンダ名	○○○株式会社	
ステータス	文字列	必須	状態	有効	ＧビズＩＤ側で決定 （設定通知書にて通知）
作成日	文字列	必須	RP 登録完了日		ＧビズＩＤ側で決定 （設定通知書にて通知）
有効期限	文字列	任意	RP 登録有効期限		ＧビズＩＤ側で決定 （設定通知書にて通知）
更新日	文字列	必須	登録情報更新日		ＧビズＩＤ側で決定 （設定通知書にて通知）

（2）OpenID Connect 連携に関する情報

項目	データ型	必須/任意	備考	サンプル	備考
Client ID	文字列(50)	必須	RP の一意の識別子 ※半角英数字	RP01	Ｇビズ ＩＤ側で一意に決定（設定通知書にて通知）本番・検証用それぞれについてご連絡。
ClientSecret	文字列(255)	必須	認証に使用する秘密情報 ※運用側で採番	xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx	Ｇビズ ＩＤ側で一意に決定（設定通知書にて通知）本番・検証用それぞれについてご連絡。
ログイン後のリダイレクト URL	URL	必須	ログイン後のリダイレクト URL	https://www.xxxxxxx.go.jp/redirect	本番と検証用について、それぞれ記載ください。 注意点① 正しいリダイレクト URL が記載されていなかった場合（正しくご申告いただけない場合）、リダイレクトが失敗しエラーとなりますので、必ず正しい内容を記載ください。 注意点② 一つの Client_ID に対して、複数のリダイレクト URL を紐づけて利用する際は、 認証リクエスト（https://gbiz-id.go.jp/oauth/authorize ）の際、パラメータとして全ての redirect_uri の指定が必須となりますので、ご注意ください。 注意点③ リダイレクト URI の文字数の制限については、2048 桁までとなります。 ・リダイレクト URL は絶対 URI である必要があるため、*（アスタリスク）や部分一致などはご利用できません。 ・URL として利用が許可されている文字であれば、利用できない文字はございません。

（3）委任申請に関する情報

項目	データ型	必須/任意	備考	サンプル	備考
ClientKey	文字列(255)	必須	委任 API のリクエスト時に必要な RP の一意の識別子	RP01	Ｇビズ ＩＤ側で一意に決定（設定通知書にて通知）本番・検証用それぞれについてご連絡。
ClientToken	文字列(255)	必須	認証に使用する秘密情報 ※運用側で採番	xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx	Ｇビズ ＩＤ側で一意に決定（設定通知書にて通知）本番・検証用それぞれについてご連絡。
委任有無	数字	必須	委任 API のリクエスト時の認証に使用する秘密情報	1	委任を行うシステムであるかを選択してください。 有り：1、無し：0
API 呼び出し元 IP アドレス	IP アドレス	任意	委任 API を利用する際の発信元 IP アドレス 上記委任有無が「有（１）」の場合、必須となる 本番： 検証：	xxx.xxx.xxx.xxx/32	本番と検証用について、それぞれ記載ください。
対象サービスコード	文字列(6)	必須	委任情報取得 API にて返却される委任の対象サービスのコード値	sample	Ｇビズ ＩＤ側で一意に決定（設定通知書にて通知）本番・検証用それぞれについてご連絡。
対象サービス名	文字列(20)	必須	委任申請時に画面表示されるサービス名	サンプル申請サービス	

（4）多要素認証ポリシーに関する情報

項目	データ型	必須/任意	備考	サンプル	備考
サイトとしての	文字列	必	1 要素認証のみ、2 要素認証	1 要素認証のみ	サービスの認証ポリシ

認証ポリシー		須	必須、1 要素認証＋2 要素認証		ーを指定してください。 本番と検証用について、それぞれ記載ください。

（5）TOP ページコンテンツ（利用可能なサービス一覧）への登録内容

項目	データ型	必須/任意	備考	サンプル	備考
サービス名称	文字列	必須	RP のサービス名称	サービスサンプル	※掲載タイミングは月 1 回（第一営業日）となります。原則、RP 様のサービス開始日（サービスリリース日）の翌月の第一営業日に掲載されます。（サービスリリース日が第一営業日の場合は同日に掲載します。）
サービスサイト URL	URL	必須	RP のサービスサイト URL	https://xxxx.go.jp	
利用可能なアカウント種別	文字列	必須	gBizID プライム、gBizID メンバー、gBizID エントリーから利用可能な種別を記載	gBizID プライム、gBizID メンバー、gBizID エントリー	
連絡先	文字列	必須	担当省庁名/自治体名（部署、部課および電話番号または電話番号が記載されている URL	省庁様：〇〇省、〇〇庁（担当省庁名、自治体名、部署名をご記入下さい） 自治体様：〇〇県、〇〇市（部署名までご記入下さい） 連絡先：電話番号、もしくは、連絡先の記載がある URL	

（6）システム内の利用可能なサービス一覧への表示・非表示について

項目	データ型	必須/任意	備考	サンプル	備考
システム内の「利用可能なサービス一覧」へのサービス名称の表示可否	文字列	必須	プライムがメンバーにサービスの利用権限を設定する画面に、そのサービス名を表示するか非表示とするかを選択する。	※二択 「表示する」または 「非表示にする」	非表示の場合、プライムはメンバーにサービスの利用権限を付与できないため、メンバーはサービスを利用できない。

（7）本番環境疎通用テストアカウントの有無について

項目	データ型	必須/任意	備考	サンプル	備考

テストアカウント有無	文字列	必須	テストアカウントの有無の選択[　有りの場合：１、無しの場合：0　]		
SMS 受信番号	文字列	1.の場合必須	SMS 受信番号記入	090 等から始まる番号	
メールアドレス	文字列	1.の場合必須	メールアドレス記入		

（8）連絡先情報

GビズＩDから運営者、開発者向け連絡事項（RP 登録に関する連絡、停止などの連絡、仕様などに関する調整等）を受け取りたいご担当者様の連絡先を「連絡先情報」シート（別シート）に記載。

なお、担当者が変更になった場合は、GビズＩD RP サポート窓口： gbizid_rp_support@ml.ntt.com までご連絡をお願いいたします。定期的（年 1 回程度）に RP 担当者のご連絡先を最新に更新するため、確認のご連絡をさせていただいております。何卒ご協力の程よろしくお願い致します。

- Scope について

  Scope は以下の通り

Scope	内容
openid	アカウント管理番号
Profile	基本情報の項目を含む
user	アカウント利用者情報の項目を含む
mandate	gBizID メンバーへ委任する RP の情報
email	アカウント利用者情報のうち、アカウント ID（メールアドレス）
offline_access	リフレッシュトークンを取得したい場合に指定する

4.4. テストでの確認ポイント

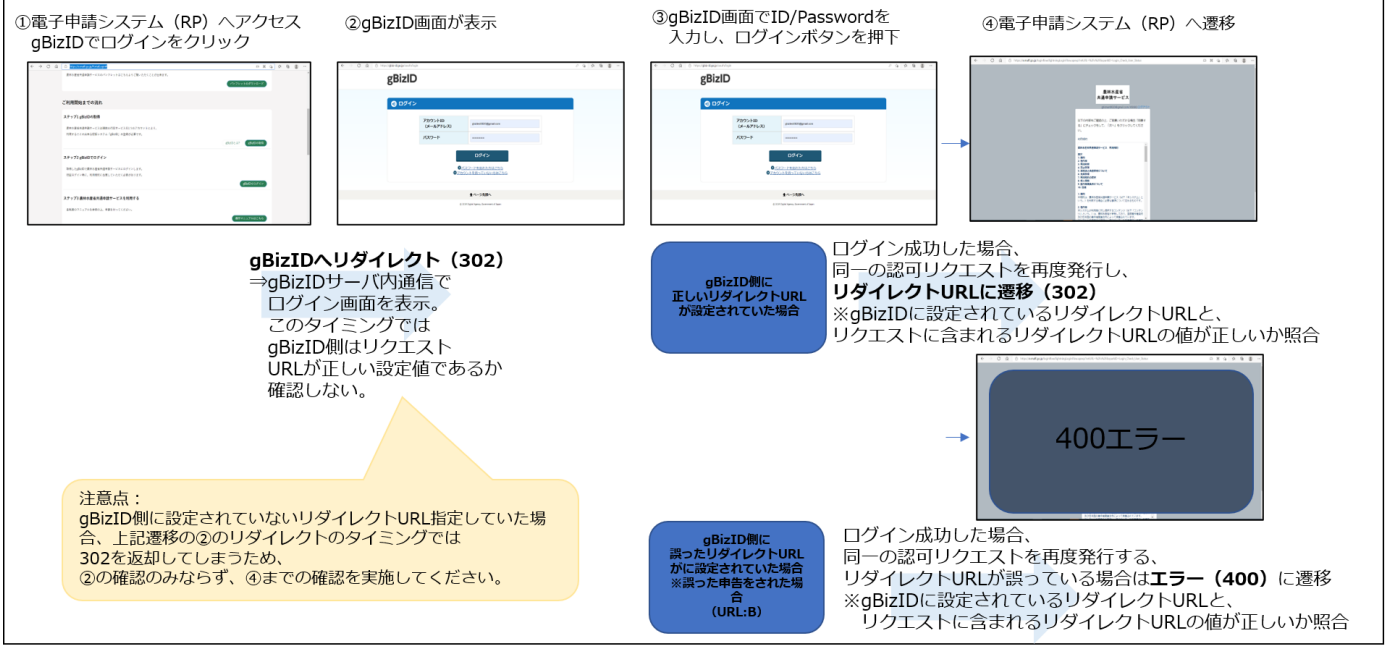
RPの登録後の動作確認については、OpenID Connectに関する各種リクエストの動作確認を行い、RPとGビズＩＤが正常に連携されていることを確認のこと。

- OpenID Connectに関連した確認ポイント

OpenID Connectリクエスト	確認内容
ユーザ認可リクエスト	認可リクエストでログイン成功後に、リダイレクトURLで指定している（RP側の）URLにリダイレクトされること。※注意1
	ユーザ認可のレスポンスで取得したstateの値が、リクエストで送信した値と同じであること。
アクセストークン取得リクエスト	ログイン成功後のリダイレクトで取得した認可コードで、アクセストークンの取得が可能なこと。
	アクセストークン取得のレスポンスで取得した id_token に含まれる nonce の値が、ユーザ認可リクエストで送信した値と同じであること。 id_token の検証が正常に行えること。
属性取得リクエスト	アクセストークンを使用して、属性情報の取得が可能なこと。
	認可リクエストでscopeにはRPに設定したものが指定可能となっており、属性情報には指定したscopeものが取得されること。
アクセストークン再取得リクエスト	認可リクエストのscopeに「offline_access」を指定した場合、アクセストークン取得のレスポンスで取得したリフレッシュトークンを使用して、アクセストークンの再取得が可能なこと。
	アクセストークン再取得のレスポンスで取得した id_token の検証が正常に行えること。

※１：注意点：【認可リクエストでログイン成功後に、リダイレクトURLに指定する（RP側の）URLへリダイレクトされること。】については、
電子申請システムへアクセスし、gBizIDへログインしたのち、その後電子申請システム側にリダイレクトする一連の流れ（①～④）について動作確認を行うことを推奨します。
また、設定依頼書にて、正しいURLが申告されていなかった場合、また、一つのClient_IDに対して複数のリダイレクトURLを紐づけて利用する際にすべてのURLをご申告いただいていない場合は、④のリダイレクト部分にてエラーが発生しますので、必ず正しいリダイレクトURLをすべて申告するようにしてください。

■リダイレクト時の画面遷移イメージ



➢ その他確認ポイント

確認観点	確認内容
認証実施時の挙動（1要素認証サイト）	いずれのアカウント種別の場合も、 登録した認証要素（1要素認証 ）で、認証が要求されること。
認証実施時の挙動（2要素認証サイト）	gBizID プライム、gBizID メンバーでアクセスした場合、 登録した認証要素（2 要素認証 ）で、認証が要求されること。 ※RP 仕様観点 gBizID エントリーでアクセスした場合、1 要素認証後、 本サイトは本来 2 要素が必要となるサイトとなるため、 RP側で「権限がありません」などのエラーが表示され、 ログインエラーとなること。
認証実施時の挙動 （1要素 2要素併用）	gBizID プライム、gBizID メンバーでアクセスした場合、 1 要素メニュー、2 要素メニューともに、2 要素認証 で、認証が要求されること。 ※RP 仕様観点 gBizID エントリーでアクセスした場合は、1 要素メニューについては、アクセスができ、2 要素メニューについては、本メニューについては本来 2 要素が必要となるサイトとなるため、RP 側で「権限がありません」などのエラーが表示され、ログインエラーとなることを確認する。
アカウント種別に応じたRP側での制御	※RP 仕様観点 gBizID エントリー、gBizID プライム、gBizID メンバーのアカウント種別に応じて、RP 側で想定している仕様でふるまえることを確認する。 RP 側の仕様にあわせて、必要に応じて確認ください。
委任情報に関する動作確認	委任情報が取得できていることを確認する。

➢ エラー発生時の調査について

ＧビズＩＤの検証環境・および本番接続においてエラーが発生した場合は、以下を記載の上、RP サポート窓口までご連絡ください。

ご申告いただく内容

以下の項目情報を事前にいただきますと、エラー原因の調査がスムーズに行えます。ご協力のほどよろしくお願い致します。

・事象発生日時：
・手順（ユーザー認可リクエストの情報）：
・リクエストの内容：
・利用アカウント（アカウント ID）：
・レスポンス内容：
・利用環境（検証環境、商用環境）：
・実施時間：
・ブラウザ：
・再現性有無：

4.5. 接続後の対応

RPの登録後に設定を変更したい場合や削除したい場合は、ＧビズＩＤ RPサポート窓口にお問い合わせください。ＧビズＩＤとの接続を解除したい場合、またRPとしてサービス終了する場合は、必ず削除依頼についてご申告ください。

➢ 設定変更等に関する対応のお願い

・設定変更に関し、通常のRP変更対応の範囲で収まらない作業が予想される場合（例：短期間で複数のRPの設定を変更したい、特定のタイミングで変更を希望したい、等）は、RPご担当者様からデジタル庁に対し実施内容を説明していただいた上、対応について判断させていただきたく思います。こういったケースでは、実施を希望する3か月前までに、ＧビズＩＤ RPサポート窓口へご連絡いただくようお願いいたします。

➢ RP削除に関する対応

・RP設定申込書にて、削除する環境に関するサービス名およびClientIDについてご申告いただきます。
・ＧビズＩＤ RPサポート窓口にて、RP設定の削除およびTOPページコンテンツから該当サービス情報を削除いたします。

➢ ログインエラーに関する対応

・検証環境および本番環境にて接続ができない場合で、RPご担当者様側で検証の結果GビズID側の原因と考えられる場合は、以下の情報を添えてＧビズＩＤ RPサポート窓口までお問合せください。

＜ヒアリング事項＞
・事象発生日時
・利用アカウント（アカウントＩＤ）
・利用環境
・ブラウザ
・手順
・事象調査委調査のためにリクエスト内容について記載ください。
　-ユーザ認可リクエスト
　-アクセストークン取得リクエスト
・再現性の有無

4.6. よくあるお問合せ事項

本番環境と検証環境の環境に関する質問

Q1	ＧビズＩＤの本番環境と検証環境の違いは何ですか？
A1	本書の 4.1. 各環境概要をご確認ください。

Q2	ＧビズＩＤの本番環境は、サービスリリース日（エンドユーザ公開日）の原則 1 週間前に接続とありますが、事前に（数か月前に）ＧビズＩＤの本番環境と動作確認のために接続することは可能ですか？
A2	原則的にできません。ＧビズＩＤ検証環境とＧビズＩＤ本番環境は同等の構成であるため、事前の動作確認や接続試験はＧビズＩＤ検証環境と接続することにより動作確認をご対応ください。 Ｇビズ ＩＤ本番環境は、稼働中のシステムであるため、試験などに利用することは想定しておりません。

Q3	GビズＩＤとRP連携するにあたり、本番環境以外に検証環境も準備する必要はありますか？
A3	検証環境と本番環境の両方をご準備ください。RP様の検証環境はGビズＩＤの検証環境、RP様の本番環境はGビズＩＤの本番環境とのみ、接続することが可能となっております。 なお、Ｇビズ ＩＤの検証環境は、連携前の接続確認用としてだけでなく、ＧビズＩＤサービスの機能追加・変更時において先行リリースを行い、RP 側のシステムに影響がないかを確認いただく用途にもご利用いただけます。以上の理由により、RP 側でも必ず検証環境をご準備いただき、Ｇビズ ＩＤの検証環境と接続していただきますよう、よろしくお願いいたします。

本番環境と検証環境のテストアカウントに関する質問

Q4	テスト用にGビズＩＤの本番環境・検証環境のgBizIDプライムのアカウントの作成方法を教えてください。
A4	本書の 4.1. 各環境概要　のＧビズＩＤテストアカウント作成方法をご確認ください。

Q5	GビズＩＤの本番環境のgBizIDプライムテストアカウントは、1アカウントしか作成できませんか？複数アカウントが必要です。
A5	Ｇビズ ＩＤの本番環境のテストアカウントは 1 アカウントのみの提供となります。ご了承ください。

Q6	GビズＩＤの本番環境のテストアカウントが複数ほしいのですが、自身でオンライン申請や書類審査申請により作成してもよいですか？
A6	テストを目的に gBizID プライム、gBizID メンバー、gBizID エントリーを作成することは原則的に禁止しております。（行政サービスへの申請が必要であるなど、正規の用途/目的のために作成いただくことは問題ありません）

Q7	GビズＩＤの検証環境のgBizIDプライムのアカウントはどこで作成できますか？
A7	ＧビズＩＤ検証環境での作成が可能です。ＧビズＩＤ検証環境へのアクセス手順は、ＲＰ利用申請後、審査が完了しましたら、Ｇビズ ID RP サポート窓口よりご連絡いたします。作成手順については、本書の 4.1. 各環境概要 のＧビズＩＤテストアカウントの作成方法をご確認ください。

Q8	GビズＩＤの検証環境のgBizIDメンバーの作成は可能ですか？
A8	作成は可能です。gBizID プライムを作成いただいた後、gBizID メンバーを作成ください。 ※ 実際に利用されるアカウント数のみを作成してください。 ※ 作成した gBizID メンバーにアドミン権限を付与することはできません。

検証接続エラーに関する質問

Q9	接続検証を行っているがエラーにより先に進めない。
A9	まずは本書 3.3.1.OpenID Connect について記載情報などをご確認ください。 ・各リクエスト等が、正しいメソッドおよびヘッダ名等で指定されているかをご確認ください。 ・大文字小文字の違いについてご注意ください。 ・各リクエストの順序性が正しいかをご確認ください。 （例：属性取得リクエスト単体でリクエストを行っても結果は返却されません。必ずユーザ認可リクエスト、アクセストークン取得リクエスト、属性取得リクエストの順に行ってください）。 なお、原因が不明の場合は以下項目をご記載の上、ＧビズＩＤ RP サポート窓口までお問合せください。 ＜ご記載いただく事項＞ ・エラー発生日時 ・利用アカウント（アカウントＩＤ） ・利用環境 ・利用ブラウザ ・手順について ・事象調査委調査のために、リクエスト内容について記載してください。 -ユーザ認可リクエスト -アクセストークン取得リクエスト ・再現性の有無

Q10	属性取得リクエスト時に、正しく情報が返却されない。
A10	属性取得リクエストの返却にあたっては、ユーザ認可リクエスト時に正しくリクエストコンテント内でscopeを指定してください。このケースで返却されないことが多いのでご確認ください。 エラーの原因が不明の場合は、A7のヒアリング事項を記載の上、ＧビズＩＤ RPサポート窓口までお問合せください。

Q11	検証環境が接続できたため、検証アカウントにてログインを試みたがログインができない。
A11	これまでの事案の場合、以下のケースが多数ございました。以下事象についてご確認ください。 ・設定申込書上で、ご指定いただいたリダイレクトURLに誤りがあった。 ・何度もログインを試みたため、SMS送信数の上限に達してしまい、SMSが届かなくなってしまっていた。 （SMS送信数上限は１日あたり同一番号に対して50通までとなります。）

ユーザがログインできない事象に関する質問

Q12	アカウントにてログインを試みたがログインができない。
A12	これまでの事案の場合、以下のケースが多くございました。以下事象についてご確認ください。 ・何度もログインを試みたため、SMS送信数の上限に達してしまいSMSが届かなくなってしまっていた。 （SMS送信数上限は１日あたり同一番号に対して50通までとなります。）

Q13	RPにログインしたＧビズＩＤユーザから「RPにログインしたはずなのに、RPページでなく、なぜかＧビズＩＤのマイページが表示される」と申告がある。

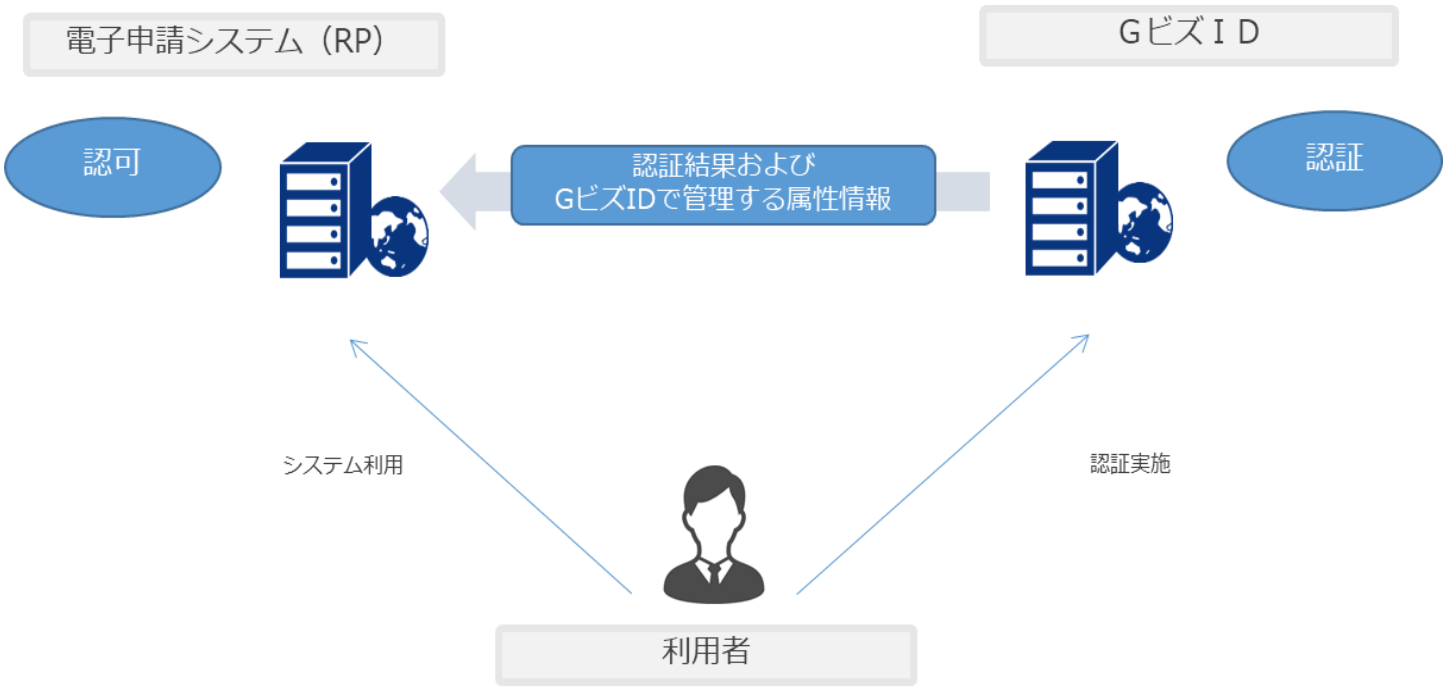
A13	これまでの事案の場合では、原因はＧビズＩＤユーザのイントラ環境に導入されたWeb無害化ツール（menlo等）などのセキュリティソフトにより、ログイン後の各電子申請システム側（RP）のリダイレクトURLがアクセス拒否されているためと判明しています。本ケースの対策としては、リダイレクトURLを社内で除外申請していただくことで解決できます。なお、リダイレクトURLがブロックされた際に、ＧビズＩＤのマイページに遷移する理由は、ＧビズＩＤ側の仕様によりリダイレクト先に到達できなかった際にデフォルトのランディング先にマイページを指定しているためです。

5. 参考情報

5.1. 参考情報：認証・認可の観点で、RP 側で実装すべきポイント（1/2）

前提：電子申請システムとGビズＩDの認証・認可の関係について

GビズＩDでは、利用者に対する認証を行います。
GビズＩDから、電子申請システムに対しては、認証の結果およびGビズＩDで管理する情報を渡します。
電子申請システムでは、渡された情報をもとに、利用者に対する認可を行ってください。
（該当の利用者が利用できる機能などを制御していただく必要があります。）
認可に関する実装については、RP側で検討する必要がございます。



参考：認証と認可の違い

処理者	説明
認証（Authentication）	相手が（何）であるか確認・特定すること
認可（Authorization）	特定の条件に対して、リソースアクセスの権限を与えること 。

5.1. 参考情報：認証・認可の観点で、RP 側で実装すべきポイント（2/2）

電子申請システムで実装すべき認可実装時の制御例

RP側では、Ｇビズ ＩＤから渡される情報をもとに認可の実装を行っていただきます。
認可の実装例について、以下に示します。

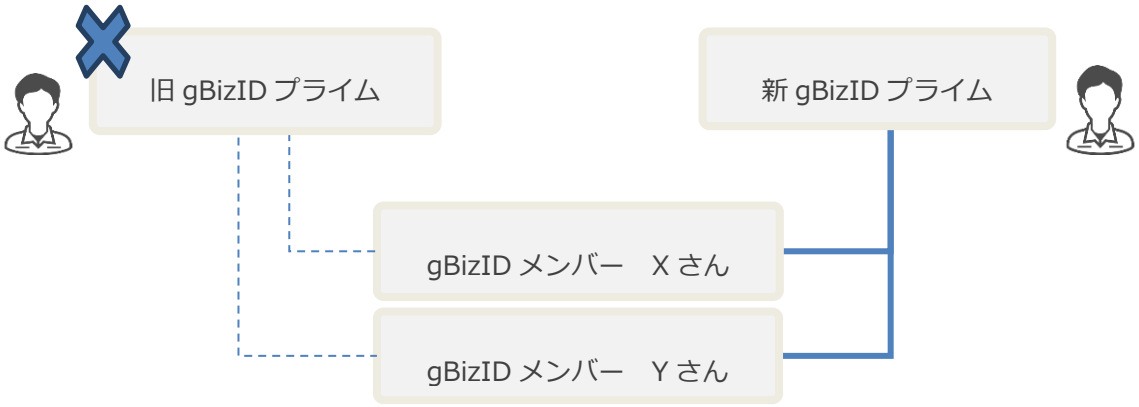
項目	制御盤	Ｇビズ ＩＤから渡される情報	該当アカウント種別
アカウント種別による制御	Ｇビズ ＩＤのアカウント種別により、RP 側にアクセスさせるか、否かを制御するアカウント種別例： gBizID エントリー、gBizID メンバー gBizID プライム 実装例： gBizID エントリー等には利用させないシステムの場合は、gBizID エントリー種別である際に、RP へのアクセスを不可とする実装を行う。	性取得リクエストにより返却される userinfo 情報のアカウント種別により確認 (UserInfo.profile.account_type)	gBizID エントリー gBizID メンバー gBizID プライム
***gBizID* プライムにより許可されたサービス内容による制御**	Ｇビズ ＩＤで保持する「gBizID プライムにより許可されたサービスであるかどうか」の情報により、RP 側にアクセスさせるか、否かを制御する。(※)	属性取得リクエストにより返却される userinfo 情報の利用可能なサービス情報（mandate）により確認 (UserInfo.mandate.mandate_info.client_id)	gBizID メンバー
他社から委任により許可されたサービス内容に関する制御	Ｇビズ ＩＤで保持する「委任者から許可されたサービスであるかどうか」の情報により、RP 側にアクセスさせるか、否かを制御する。	委任情報取得 API で送られる情報により確認 (委任 API RES:system_cd)	gBizID メンバー gBizID プライム

※ アドミン権限を持つgBizIDメンバーからも許可できますが、「gBizIDプライムにより許可されたサービスであるかどうか」の情報は保持されます。

その他：
RP側で実装すべき確認ポイント（gBizIDプライムのアカウント引継ぎに関する制御について）（1/2）

前提：gBizIDプライムが変更した場合の動作

ＧビズＩＤでは、代表者交代等に伴い
gBizIDプライムが変更になった場合の機能（アカウント引継ぎ機能）を実装しています
gBizIDプライムが変更となった場合は、配下のgBizIDメンバーについては、
アカウント引継ぎ機能により、新しいgBizIDプライムへ紐づけられます。



●アカウント引継ぎ時は、旧gBizIDプライムから新gBizIDプライムに対して、
旧gBizIDプライムに関する、以下の情報が引き継がれます。

①gBizIDメンバーの情報
②gBizIDメンバーに許可している利用可能なサービス情報
（gBizIDメンバーが利用可能な対象サービス）
③委任情報
（委任申請ID、委任者プライムID、受任者プライムID、対象サービス、委任期間（開始日、終了日）

●gBizIDプライムが変更となった場合、ＧビズＩＤでは、以下が変更となります。
・gBizIDメンバーの属性情報として管理される親プライム情報
（属性取得リクエストにより返却されるuserinfo情報の親gBizIDプライムID情報（parent_id）
・委任・受任時のAPI情報におけるgBizIDプライム情報
（委任情報取得APIの委任元情報に関するアカウント管理番号（meti_id）
※旧gBizIDプライムと新gBizIDプライムそれぞれが持つアカウント管理番号は変更されません。

RP 側で実装すべき確認ポイント（gBizID プライムのアカウント引継ぎに関する制御について）（2/2）

前提： gBizIDプライムが変更した場合の動作

●新gBizIDプライムプライムは、アカウント引継ぎ時に、
旧gBizIDプライムの今後のアカウントの利用について、「アカウントの利用を停止する」か否かを
選択することができます。
アカウントの利用の停止を選択した場合は、旧gBizIDプライムはアカウントが停止状態となり、
ＧビズＩＤへ認証ができなくなります。
⇒現時点では、RP側に対し、gBizIDプライムのステータスを連携するAPI等は用意しておりませんので、
RP側が主体的にアカウント停止状態であることを把握することはできません。
（ただし、上記のとおり、アカウント停止状態になった際には、ＧビズＩＤへ認証ができなくなります。）

電子申請システムで実装すべきgBizIDプライムが変更時の制御例

●電子申請システムでは、
gBizIDプライムに対する該当法人の過去の申請状況の照会可否について、検討する必要がありますが、
現時点では、RP側に対し、旧gBizIDプライムと新gBizIDプライムの紐づけ情報や、
新gBizIDプライム上に旧BizIDプライムの情報が含まれるAPI等は用意しておりませんので、
引き継いだ際に、過去の申請状況などを紐づけることはできず、
旧gBizIDプライムおよび新gBizIDプライムそれぞれ自身の申請情報を確認することしかできません。
※なお、gBizIDプライムに紐づくgBizIDメンバーの、gBizIDプライムからの申請情報の
閲覧可否についても、RP側の実装によります。
※将来的に、 gBizIDプライムと新gBizIDプライムの紐づけ情報をＧビズＩＤにて管理し、その情報をAPI
等により電子申請システムに送れるようシステムを実装した際には、以下の実装について検討いただく形に
なります。（実装時期：未定（検討中））

項目	制御例
gBizID プライム	・新 gBizID プライムに対し、 該当法人の過去の申請状況を閲覧可能とするか否か ・旧 gBizID プライムに対し、 該当法人の過去の申請状況を閲覧可能とするか否か